

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 2 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 19名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870102401
事業所名 (ユニット名)	グループホーム すみれの家 根っこ
記入者(管理者) 氏名	西田 涼子
自己評価作成日	令和 3年 6月 24日

<p>【事業所理念】</p> <p>すみれグループ基本理念 利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p> <p>(根っこユニット)</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>サービス担当者会議に同居者や家族の参加をお願いする……できていない。</li> <li>同居者の反応や表情、心に残った言葉など日々の様子にも注目して同居者の理解を深め、モリタリングの根拠になる記録になるようにする……大分できるようになったと思う。</li> <li>外部評価の結果について運営推進会議棟で報告し参加できなかった家族には事業所入り口にファイルを置いていつでも見ることができるようにした。</li> <li>外出の機会が少ない……コロナ下ではあるが近くの公園などに散歩に出かけたり、玄関先や駐車場を利用して昼食や日光浴など楽しんでいる。</li> </ol>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から少し入った場所にある2階建ての3ユニット事業所は、開設され20年目を迎える。事業所では、信頼し合える職員同士の良好なチームワークができており、比較的勤務歴の長い職員が多く、利用者の笑顔や「ありがとう」の声を励みにしながら、真摯に利用者へのサービス提供ができています。また、事業所では、家族と一緒に参加できる日帰りバス旅行に出かけたり、地域の運動会の観戦したりするなど、積極的に家族や地域との交流を深めている。現在のコロナ禍において、外出や行事は中止しているものの、事業所では駐車場を開放して屋外でランチを食べたり、近隣の公園まで散歩で出かけて缶コーヒーを飲んで一服してもらったりするなど、利用者が日常的に外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。さらに、事業所にある畑でなすやきゅうりなどの野菜づくりもしており、下肢筋力の低下傾向にある利用者が、安心安全に畑仕事が継続できるよう足場を整えるなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや役割を継続してもらいながら、張り合いのある毎日が送れるよう職員全員で取り組んでいる。</p>
--	--	---

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前にご本人、ご家族、ケアマネ等にご希望や不安なことなど聞き取りしている	◎	/	◎	入居前に、職員は利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。また、日々の関わりの中で知り得た利用者の思いや希望は、アセスメントシートや介護記録などの記録に残し、職員間で情報共有するようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご本人からお話を傾聴している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	事前にご本人、ご家族からこれまでの生活や好きなこと嫌なことなど確認している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントをおこなうスタッフと共有しながら介護記録に落とし込んでいる	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	スタッフの視点ではなくご本人の思いなどを大切にしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前に家族やケアマネ、ご本人などと相談している	/	/	○	入居前に、職員は自宅などを訪問し、利用者や家族から馴染みの暮らしや生活環境などを聞いて把握し、アセスメントシートに記録している。入居前に利用者が利用していた介護サービス事業所や居宅介護事業所などから得た情報も個人のファイルに残しており、職員は以前の情報を確認することができる。また、アセスメントシートには、利用者の生活歴や趣味などが記録できているものの、更新内容や追記などの記録が分かりづらいため、日々の生活の中で新たに知り得た情報を分かりやすく色を変えて追記したり、定期的にシートの記載内容を更新したりすることを職員間で話し合うなど、どの職員が見ても利用者の人物像が把握しやすいような記録作成ができることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ご本人の生活をみてできることとできないことを把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	事前にお話を伺い入居してから様子やご本人の訴えで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の暮らしの中で不安要素を把握してスタッフ間で共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や申し送りにてスタッフ間で共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ショートミーティングやサービス担当者会議などでご本人の視点に立った情報を共有している。	/	/	○	事業所では、利用者や家族、関係者から把握した情報をもとにして、担当者会議やユニット会議などの中で職員間で話し合いをしている。会議では、利用者の視点から必要としているサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	状況に応じてその都度話し合いを行なっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	サービス担当者会議などで課題を抽出している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	事前にお話を伺っているが入居してからもご様子を見ながらご本人の意向が反映されるよう心がけている。	/	/	/	職員は利用者や家族から意見を聞くほか、往診時に主治医の意見も聞くことができている。担当者会議に家族が参加できない場合には、事前に電話で意見を聞き、関係者などの意見を反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、「サービス担当者会議の要点」などの記録には、「家族から事前に電話で意見を聞いた」などの旨の記載があると分かりやすく、その後の記録の参考となるため、職員間で検討することを望みたい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人やご家族、医師や看護職員、介護職員、管理者、ケアマネなどと話し合って介護計画を立てている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人やご家族、医師や看護職員、介護職員、管理者、ケアマネなどと話し合って介護計画を立てている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	地域の人達との協力体制はできていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	担当者会議やショートミーティングなどで課題を抽出し支援計画書に反映している。また確認のために支援計画書をコピーして介護記録のところに添付している。	/	/	◎	訪問調査日には、経過記録の摘要欄に介護計画の課題とサービス内容の番号が連動された記載様式となっており、日々の支援の中から介護計画の内容に沿った、分かりやすいサービス実施記録を確認することができた。利用者一人ひとりの経過記録には介護計画のサービス内容がファイルされており、職員は利用者の状況や計画内容をすぐに確認できるようになっている。また、経過記録や申し送り事項には、利用者の言動が記載されているほか、職員の気づきや工夫を記録するようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	担当者会議やショートミーティングなどで課題を抽出し支援計画書に反映している。また確認のために支援計画書をコピーして介護記録のところに添付している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記載している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に記載したり、申し送り簿に記載している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	計画書の見直しや作成をおこないご家族様にご了解いただいている	/	/	◎	介護計画は、要介護認定の期間に応じて見直しをしている。毎月実施しているユニット会議の中で利用者の現状を確認し、モニタリングをしている。また、評価の際には利用者の課題やサービス内容などを検討しているほか、日常生活動作についても現状を確認し、記録に残すことができている。さらに、利用者の状態に変化があった場合には、随時計画の見直しを行い、現状に合った介護計画を作成するよう努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月担当者会議を開き現状確認を行なっている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	日常的に頻回にご家族やご本人、医師や看護師、ケアマネ、管理者などと密に連絡をとり話し合っ計画書に反映している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	日常的に頻回に家族やご本人、医師や看護師、ケアマネ、管理者などと密に連絡をとり話し合っている。	/	/	◎	毎月、ユニット毎にユニット会議を実施し、利用者の状況やサービス内容などを検討している。毎日の申し送りに加えて、必要時には随時話し合いの場を設けている。また、会議に参加できない職員には前もって意見を申し出してもらうほか、出勤時には議事録を確認してもらう仕組みづくりをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から朝の申し送りやショートミーティング、気づいたときにすぐその場で気軽に話し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	月に1度ユニット会議を開き担当者会議を開催している。参加できない職員には事前報告や後日申し送り簿等で決まったことや計画書作成段階で意見徴収を行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加できない職員には事前に聞き取り、後日申し送り簿や会議録を見ていただいている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	月に1度ユニット会議を開催しサービス担当者会議も行なっている。	/	/	◎	毎日の申し送りのほか、月1回ユニット会議を開催し、口頭での伝達を徹底している。また、申し送り簿やユニット会議の議事録などを作成し、職員は出勤時などに確認する仕組みができており、事業所では、全ての職員が情報共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	月に1度ユニット会議を開き担当者会議を開催している。参加できない職員には事前報告や後日申し送り簿等で決まったことや計画書作成段階で意見徴収を行っている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個別にお部屋を訪問した時やお食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	/	食べたい物やその日に着たい服、食事を食べ始める時間など、職員は利用者の希望やペースに合わせた自己決定ができるよう支援している。自己決定ができていない利用者には、職員が選択肢を絞ったり、選びやすいような声かけをしたりしている。また、事業所では新聞や広告が利用者の目の届く場所に置いてあり、欲しい物や食べたい物などの会話につながることもある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	個別にお部屋を訪問した時や食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個別にお部屋を訪問した時や食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ご本人の希望や生活習慣を大切にしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	スタッフが明るい雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や言動、行動などからご本人の思いを受けとれるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	◎	○	○	去年からのコロナ禍において、外部研修に参加できる機会が限られているため、事業所では職員に人権や尊厳などを学んでもらうため、ホーム長が参考となる書籍を紹介して、全ての職員に感想文を提出してもらい、「利用者とのかかわりやケアを行う上で、大切なことは何か」を考えてもらっている。中には、利用者や過ごす時間が長くなると、つい家族のような馴れ馴れしい言葉づかいなどが出てしまう場面が見られるため、職員同士で気をつけるようにしている。また、居室への入室時にはノックや声かけをすることができているものの、利用者の不在時にも職員がリビングにいる利用者へ一声かけて入室できるような仕組みづくりをするなど、職員間で検討することを望みたい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	できることはできる限り自分でできるように援助し、皆一緒にお手伝いなどお願いしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握しており、大きいトラブルになる前に、食事時の配席などを工夫している。男性利用者は少ないが、職員はプライドや性格に配慮しながら、孤立しないよう対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	一緒にお手伝いをしてもらったり、励ましてもらったり楽しいことを皆で一緒に行ない笑顔がでると職員も1日の疲れがとれ明日も頑張ろうと思うことがいっぱいある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	必要に応じて間に入り、入居者同士が良い関係になれるよう努めている。また、世話役の入居者の協力で大変助かっている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	状況によっては席替えをしたり、順番などを配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	ご家族様を中心に関わりのある方の面会などお願しているが現在は残念ながら面会ができないので大変申し訳なく思っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様やご本人様のお話から一定程度把握しているつもりであったが実際は亡くなられた後、葬儀に参列して遺影(若いときの写真)を見るたびに初めてご入居者の本当の人名や暮らしぶりを教えられることがある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ感染防止のためできていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	ときどき近くの公園まで散歩することがあるが、外食や買い物などができていない。	○	○	○	日頃から、近隣の公園まで散歩したり、ドライブで買い物に出かけたり、家族と一緒に日帰りバス旅行をするなど、利用者が外出できるよう支援している。現在のコロナ禍において、面会や外出制限を設けていることもあり、外出できる機会が減っているものの、事業所では駐車場を開放して屋外でランチを食べたり、近隣の公園まで散歩で出かけて缶コーヒーを飲んで一服してもらったりするなど、利用者が日常的に外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。また、重度の利用者にも体調に配慮しながら、日光浴など外気に触れられるよう支援している。さらに、ホーム長等は、「全ての利用者と職員のワクチン接種が完了すれば、感染対策を行いながら徐々に外出の幅も広げていきたい」と考えている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力がも得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ下で昨年からのすべてのイベントを中止してボランティアの参加もお断りしている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行っており、近くの公園まで散歩をしたり、駐車場を開放してお昼を外で食べたり(屋外ランチ)玄関先で日光浴をしたりしている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	経験年数や資格取得の有無によって理解度はことなるが日々協力合って理解に努めている	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを見極め、洗身や着替えなど自身でできることは自分でしてもらい、意識して職員が手を出しすぎないように見守り支援をしている。また、日常的に、洗濯物干しや足踏みの歩行訓練などを日常の動作の中に取り入れ、利用者の生活リハビリや心身機能の維持につながるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の健康チェックと状態変化に注意し、必要時は看護師や医師とも相談し早めの対応に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	サービス計画書にもできることはできるだけ自分でおこなうようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	ご本人やご家族様からの情報でこれまでの生活、習慣などを把握している。	/	/	/	日頃から、調理の下ごしらえや食器拭き、畑での野菜栽培など、事業所では利用者一人ひとりに役割と楽しみを持ちながら、張りのある毎日の生活が送れるように支援している。訪問調査日には、男性利用者が洗濯物を干しをしている様子を見ることができた。また、裁縫や編み物が得意な利用者には、入居後にも継続できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯物をたたんでもらったり、その方の出来る範囲でお願いなどしている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ下地域との交流ができていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人やご家族様から情報をいただき、ご希望に合わせて準備を行なっている。				整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員は利用者にとりげなく声をかけをして、自分でできる利用者には自身で整えてもらうなど、プライドにも配慮した支援している。ベッド上で過ごすことが多い重度の利用者もいるが、毎日の更衣をしてもらい、昼夜の区別やメリハリをつけるよう支援している。また、病院で長くパジャマで過ごしていた利用者が事業所へ入居し、日中に服へ着替えることを拒否していたものの、職員が声かけを工夫しながら、着替えてもらえるようになった事例もある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご本人やご家族様からの情報やご希望に合わせて好みの服や持ち物、髪型などを整えさせていた				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	その都度、一緒に考え選んだりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その都度、一緒に考え選んだりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりしげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度、気をつけるようにしており、ご自分で整えてもらったり職員がそっとお手伝いしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ご希望があれば同行するが、現在は特になくホームに来られる方をお願いしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その都度、ご本人に合わせて行っている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	入居者にとって食事が1番の楽しみであることを職員全員が理解している。準備をするところから出来上がりまですぐそばで見ることができ、楽しい時間となっている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。			○	次は何が食べたいと伺ったり、食事が美味しかったどうかは良く伺う。食器を拭いてもらったりすることもできる。			○	
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。			○	次は何が食べたいと伺ったり、食事が美味しかったどうかは良く伺う。食器を拭いてもらったりすることもできる。				
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。			◎	ご本人やご家族様から得た情報を基に苦手なもの、アレルギーの有無などを把握している。				
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。			◎	ご本人やご家族様から得た情報を基に苦手なもの、アレルギーの有無などを把握している。また季節感を感じさせる食材の注文や献立を行なっている。			○	
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)			○	一人一人の咀嚼、嚥下状態や体調に合わせて調理の仕方や盛り付けなどを工夫しているが誤嚥防止のためにどうしても必要な人にはトミをつけたり、ミキサー食としている。				
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。			○	入居時には必ずご家族様にこれまで使われた食器など持って来ていただくようにしている。			◎	
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。			○	一緒に食べたり、食事介助をしながら入居者の様子を観察している。			○	
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。			○	台所がすぐそばにあり、調理をしているところをみることができる。		◎	○	
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。			○	一緒に食べながら食事量や水分量を毎回チェックしている。				
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。			○	一緒に食べながら食事量や水分量、咀嚼の状態を毎回観察しており、必要に応じて対応している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。			○	栄養士はいないのでアドバイスは受けていないが献立を立てる者、調理する者がときどき意見交換を行っている。糖尿病や高血圧症の方など医師から体重や塩分の摂りすぎに注意するように言われている方については気をつけている。			○	
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。			◎	食材は常に新鮮な物を使用するように乾物や調味料以外は細かく発注し、献立に合わせて日付を記入するなど衛生管理を日常的に行なっている。				

愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ個々の入居者の状態把握と誤嚥性肺炎などの知識を教わっている。	/	/	/	毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。定期的に、事業所には訪問歯科の往診があり、利用者の口腔内の状況を確認してもらい、伝えてもらっている。また、職員は歯科衛生士から口腔ケアのアドバイスを受けており、口腔ケアの重要性を教えてもらっている。また、認知症の進行など、口腔ケアが苦手な利用者もあり、職員は状況やタイミングを見計らいながら、介助するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ個々の入居者の口の中の状態や誤嚥性肺炎などの知識を教わっている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ口腔ケアの正しい方法について教わっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	できる方には毎回義歯の手入れを指導、後はこちらで仕上げを行なっている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後のケアを毎回行っている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生士の指導を受け入れ個々の入居者の状態把握に努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	認知症の進行からトイレ介助が難しいなどやむを得ない方以外はオムツを使用せずトイレ介助としている。尿意がなかったり、間に合わないなどの事情で紙パンツやパッドを使用している方が多い。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として支援している。トイレに間に合わず、失禁してしまうこともあり、事業所ではリハビリパンツを使用している利用者も多い。夜間に、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、職員は利用者のトイレに行きたいサインやタイミングを見逃さないようにして、一人ひとりに合わせた声かけやトイレ誘導を行い、パッドなどの排泄用品に頼りすぎず、トイレで気持ちよく排泄できるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食欲減退、嘔吐、夜間不眠、不穏などからいつもと異なる様子で影響を理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングや担当者会議などで話し合い見直している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングなどで話し合い看護師や医師とも相談し取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄介助から日々の様子を申し送りし、必要時はショートミーティングなどで話し合い看護師や医師とも相談し取り組んでいる。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄介助から日々の様子を申し送りし、早めの対応ができるようにしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送りし、ご本人やご家族様とも相談しながら行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングなどで話し合い実行している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	できるだけ入居者の都合やご希望に合わせて支援しているが時間帯など職員の都合に合わせていただくことが多い。	◎	/	○	利用者は、週2回を基本として入浴することができる。汚れなどの状況により、入浴の必要性がある利用者には、毎日のシャワー浴などの対応もしている。入浴が苦手な利用者には、入浴日をカレンダーに記載したり、無理な入浴とならないように対応したりするなど、利用者自身の心理的負担がないよう支援している。また、利用者の希望の湯の温度にしたり、好みの入浴剤を入れたりするなど、職員は入浴が気分転換となるよう心がけて支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	リラックスできるよう心かけて介助に当たっている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身などできるところはご本人にお願いしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、本人と相談してカレンダーなどに予定日を入れておこなっている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎日の健康チェックや入浴前のバイタルチェックなどで入浴の可否など決めている。	/	/	/	



愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の就寝時間や夜勤者からの報告などから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	入居前から継続して眠剤などを服薬している利用者もいるものの、事業所では日中の過ごし方の工夫して、夜間安眠できるよう努めている。また、事業所では、利用者の体調面や状態に考慮し、主治医と相談しながら服薬を中止した利用者もいるなど、安易に薬剤に頼らないような支援をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間眠りが浅かったり、早朝覚醒など個々の様子に合わせて個別の離床介助を行っている。昼夜逆転にならないよう生活リズムにも注意して対応している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の状態観察から医師とも相談しながら行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午前、午後とお部屋でゆっくり横になって過ごせる時間をとっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	昨年から面会制限が続いているため電話でお話しができるようにしている。また、ご利用を希望されるご家族にはリモートによる面会を行なっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	昨年から面会制限が続いているため電話でお話しができるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご家族様からの連絡がほとんどであるが、ご希望があればいつでもできるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人に直接渡して読んでもらっている。読めない場合は代読も行っている。お荷物が届いたときにはご家族様や送り主に受け取ったことを伝えている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会ができないため電話やお手紙をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご本人が希望すればお金の所持は可能としている。ただし、小口現金をお預かりしているので必要時はいつでも出せるため小額でお願いしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	外出制限があるためお金を使う機会がほとんどない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	予約を取る必要がある場所、レストランなどでは事前にご協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	入居時に確認をおこなっており、必要時はご家族様に報告、相談を行なっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に確認をおこなっており、必要時はご家族様に報告、相談を行なっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	各ユニットで小口現金として管理し、毎月本部を通して領収書の送付や残高を報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	必要時はご本人やご家族様と相談して柔軟に取り組んでいる。	/	◎	○	事業所では、利用者や家族の希望に沿って、マッサージなどの外部サービスを取り入れたり、家族と一緒に外出したり、夜間の面会希望にも応じるなど、柔軟な対応をしている。現在のコロナ禍において、事業所には面会や外出制限が設けられているため、実現できていない部分はあるが、職員は可能な限り対応できるよう努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先にプランターなど配置し、季節の小花などを植えつけ親しみやすいように取り組んでいる。	◎	○	○	国道から少し入った場所に事業所があり、分かりやすいように案内板が設置されている。ガラス扉で明るく開放的な玄関は、同じ建物内にあるデイサービスと一緒に使用している。また、建物の正面には事務室があり、来訪者は声をかけやすくなっているほか、プランターには季節の草花が植えられている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	入居者の個室の家具はそれぞれご自宅で使用されていた馴染みのあるものが置かれ、外出やイベント、日帰り旅行の写真など展示できるだけ住み慣れたホームになるよう努力している。	◎	◎	○	ワンフロアにキッチンとリビングがあり、利用者同士や職員はアットホームな距離感で過ごすことができている。リビングや居室から、事業所の畑を眺められるほか、窓を開放していると小鳥が入ってくることもあり、利用者は自然な風景や外気を感じることができている。また、事業所は開設して年月が経過しているものの、必要な所を補修したり、こまめな清掃をしたりするなど、気持ちの良い空間となるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	更衣や洗濯、ベッドを整えたりお部屋の掃除など毎日に行ない入居者が清潔で気持ちがいいように取り組んでいる。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	入居者同士がお話するのにちょうど良い距離にあることから会話が弾む。スタッフや入居者同士がお互いすぐそばにいて安心感がある。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	午前、午後とお部屋でゆっくり横になって過ごせる時間をとっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	介助の際は戸を開めプライバシーを守るようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家具は無論、衣類や被り物、履物などご本人やご家族様が選んだ物を用意させていただいている。	◎		◎	居室はベッドとエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けてある。元の企業の寮を改修したこともあり、居室にあるコンロは使用できないようにしているものの、ミニキッチンや冷蔵庫、水道も設置されており、利用者の洗面や整容にも使用することができる。また、居室には、馴染みの家具や仏壇を持ち込むことができるほか、畳を敷いている部屋もあり、利用者にとって居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	お部屋を間違えないようにドア飾りをしたり、お名前を書いたり、トイレの表示を少し大きくしたり工夫している。			○	事業所では、利用者が分かりやすいよう浴室やトイレの表示を工夫している。利用者が日時を確認しやすいように、リビングや居室には、時計やカレンダーを設置している。事業所は元の企業の寮を改修して活用しており、構造上でリビングから居室の場所が見えない位置に設置されているため、利用者の安全に配慮して、居室までの移動は職員が見守りや介助をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	スタッフ間で相談しながら取り組んでいる。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	コップや箸など馴染みの物を日常生活でそのまま使用して頂いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットの入り口や玄関など日中に鍵をかけることはない。事故防止のためにドアの入り口にセンサーを設置して早めに対処できるようにしている。	◎	◎	○	玄関の自動ドアは、日中を含めて22時ぐらいまで稼働させているが、各ユニットの入り口は夜勤職員が1名になる17時には施錠するようにしている。各ユニット入り口にはセンサーの設置があり、利用者や来訪者の出入り時にはセンサーの音で職員は確認することができる。また、外に出ようとする利用者には、職員が付き添ったり、声をかけをしたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	今は新型コロナのため面会制限を行なっているが普段はいつでも面会が自由にでき、ご家族様とも外出ができることをお伝えし、理解をいただいている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	今は新型コロナのため面会制限を行なっているが普段はいつでも面会が自由にでき、ご家族様とも外出ができることをお伝えし、理解をいただいている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居相談や訪問調査、退院時サマリー、診療情報提供書、入居時アセスメントなどから情報を整理し介護サービス計画書に反映するなど知らしめている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護サービス計画書に盛り込まれた医療情報を基に日々の様子やバイタルチェックなどから早めに対応ができるようにしている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療連携をはじめ、ユニット毎に配置された看護職員とも気軽に相談ができ、担当医とも電話や往診時にいつでも相談指示をいたくようにしている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	担当医やご家族様と相談し、適切に支援できている。	/	◎	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	担当医やご家族様と相談し、適切に支援できている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診前や受診後、その後の様子などご家族様に必ず報告し、ご了解をいただいている。また担当医にはご家族様のご希望や意向なども伝えている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	担当医から入院先の医師に診療情報を送っていただいたり、ホームでの介護情報をお渡ししたり、入院先の聞き取りに応じている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院先が行う治療進捗状況に伴うカンファレンスや退院前カンファレンスにご家族様と一緒に参加したりして情報交換を行なっている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	医療相談室や地域連携室と連絡を取り合って情報交換を行なっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医療連携を行っており、各ユニットの情報を看護職が把握している。また各ユニットには看護職員も配置していることから介護職はいつでも相談ができるようになっている。訪問看護の必要時は担当医からの指示で、ご家族様のご了解をいただき受け入れている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関が2か所、歯科診療が1か所と契約を結び歯科を除き24時間体制でいつでも相談、指示を受けることができるようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	協力医療機関が2か所、歯科診療が1か所と契約を結び歯科を除き24時間体制でいつでも相談、指示を受けることができるようになっている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	往診時や電話相談時に医師から説明を受けたり、薬が届いた際に薬剤師から薬の説明を受けたり、処方箋に書かれたない内容を読んで理解するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	入居者一人一人の薬の管理を行ない、提供時には毎回複数(2名)で確認している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	夜間の就寝状況や食欲、排泄状況、身体の痛みや浮腫み、バイタルの様子など日常的に観察を行なっている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	夜間の就寝状況や食欲、排泄状況、身体の痛みや浮腫み、バイタルの様子など日常的に観察を行なって情報提供を行なっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ホーム入居時に重度化した場合の対応についての看取り指針を提示し、必要時は看取りのカンファレンスなど実施し、ご本人やご家族様のご意向などをしっかりと伺っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明している。事業所では、24時間体制で主治医との連携が構築されており、看護師や職員などを合わせて話し合い、方針を共有している。また、利用者が重度化した場合には、利用者や家族の意向を確認しながら関係者で話し合い、看取り介護を実施している。また、看取り後には、ユニット長や経験のある職員が家族や職員の気持ちの面でのフォローをしているほか、職員間で看取り介護の振り返りの話し合いを実施するなど、チームでの看取り支援にも取り組んでいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ホーム入居時に重度化した場合の対応についての看取り指針を提示し、必要時は看取りのカンファレンスなど実施し、ご本人やご家族様のご意向などをしっかりと伺っている。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	状態が変わっていく様子を職員から常に報告を受け、ご本人やご家族、医師や看護師、看護職員、介護職員の連携体制がどのようにできているか常に確認するようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りの指針に基づき、ホームでできること出来ないことを説明して理解いただいている。また、必要に応じてカンファレンスを開き医師を交えご家族の意思を確認している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	カンファレンスを開き、ご家族様の意向や主治医の説明などを受け準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	亡くなる直前に、できるだけ最後をご家族様と一緒に過ごせるよう刻々と変化する様子を細かに観察し、ご家族様に早めに連絡して看取りができるよう面会に来てもらっている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症についてはこれまでは年に1回から2回程度学習会を開催していたが、新型コロナに関しては松山市をはじめ、愛媛県や本社からの情報をもとに注意喚起をおこなっている。職員全員のPCR検査を実施したり、できるだけ県外に出ないように通達したりしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染予防が中心で簡易な防護服やマスク、手袋、消毒の用意。廊下や手すり、トイレの消毒、手指消毒、手洗い励行、入居者のユニット間交流、デイサービスとの交流中止などしているが、発症した場合に備えて訓練は特にできていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	携帯やスマートホン、テレビ、ラジオなど情報伝達機器を通じて毎日のように新しい情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	携帯やスマートホン、テレビ、ラジオなど情報伝達機器を利用して毎日のように新しい情報収集に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員には出勤前の検温の義務付けや手洗い、うがい、手指消毒を奨励し、来訪者には玄関先での手指消毒、検温、名簿への記載などをお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	ご家族様とはいつでも連絡を取り合っておりスタッフができないことを聞いて頂いたり、食思不振の方などご家族様の協力いただいている。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所からクリスマス会や日帰りバス旅行などの行事開催の案内を家族に送付し、毎年参加協力を得て開催することができていた。現在のコロナ禍において、家族に行事の案内することはできていないが、請求書などの書類の送付時に、担当職員から手紙に写真を添えて、日頃の利用者の様子を伝えている。また、事業所では、現在面会制限を設けていることもあり、電話連絡のほか、LINEのテレビ電話を活用してオンラインでの面会ができる工夫をしており、少しでも家族に利用者の顔が見えて交流ができるようにしている。また、全ての家族には、運営推進会議の参加案内のほか、議事録も送付しており、事業所の出来事や利用者の様子などを伝えている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナの影響で現在は難しいがいつでも自由に面会ができるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	コロナの影響で現在は現在は難しいがデイサービスとの合同行事や夕涼み会、日帰りバス旅行などに参加していただきご入居者との思いで作りを行なっている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	お手紙や電話、ユニットニュース、運営推進会議の報告書等でご入居者の暮らしぶりや日常の様子を報告することができる。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	お手紙や電話、ユニットニュース、運営推進会議の報告書等でご入居者の暮らしぶりや日常の様子を報告することができる。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	できれば面会を多くしてご本人様のご様子を直接お知らせしたいところですが、現状では難しいため、電話やお手紙などでご様子をお知らせしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	コロナ下、面会の事や運営推進会議の案内、報告、職員の移動など報告を行っている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナの影響で現在はできていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時やその後の様子からご家族様に説明、報告し、ご相談にのって頂いている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	ご家族様とは頻りに連絡を取り合っており、ご様子を伝えて、ご相談にものって頂いている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時をはじめ退去時にも詳しく説明し、契約内容の変更などについてもご家族様にお伝えし、ご了解を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	介護度が要支援1になった方を次の施設に移られるまで一緒に探して退去されたケースがある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	パンフレットを作成し、入居相談時や入居契約の際に詳しく説明し、ご了解をいただいている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設時から町内会に参加して地域の行事に入居者と一緒に参加してきた。また、ホームの各種行事にも参加をお願いし、ホームの役割についてご理解、ご協力いただけるよう努めている。	/	○	/	事業所の開設当初から町内会に加入し、利用者と一緒に地域行事に参加したり、散歩時には地域住民とあいさつを交わしたりするなど、積極的に地域とのかわりを持っている。毎年、利用者が地域の運動会に招待されたり、事業所の夏祭りに地域住民の参加協力を得たりするなど、地域との交流を深めている。現在のコロナ禍において、様々な地域行事が中止になっているものの、散歩途中で地域住民と会話したり、事業所の畑で収穫した野菜を近隣住民にお裾分けしたりするなどの交流が継続できている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	開設時から町内会に参加して地域の行事に入居者と一緒に参加してきた。また、ホームの各種行事にも参加をお願いし、ホームの役割についてご理解、ご協力いただけるよう努めている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	はじめの頃は玄関先に張り紙をされたりして、一部の方から反発もあったがその後はなくなり、入居者が地域の行事に参加しても温かく声をかけて下さり、散歩の途中話しかけたりして下さる。職員も通リすがりにご挨拶が自然にできている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	この1年程は無いがそれまでは町内会長さんなどがときどき通リすがりにホームに立ち寄り下さることがあった。今でも道端で会うと「ホームは(感染者を出さず)によく頑張っている」とほめて下さる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	朝の挨拶や庭の手入れをされている方との談笑など行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍以前は紙芝居やお話相手に近くの方がボランティアで来られていたが、高齢を理由にやめられてからは来られていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	以前は町内会の行事に参加されていたが、現在はコロナのためなし。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署の方々のご理解とご協力で毎年、定期的に防火訓練や防災訓練を行なっている。また、入居者の理美容に外部から来ていただきご協力いただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	この1年間は文書開催となり直接お会いする機会が無いが、ご意見やご希望を伺うようにしている。	/	◎	◎	新型コロナウイルス感染症予防のため、現在の運営推進会議は職員のみで開催している。事前に家族の意見を聞き、会議の参加メンバーに報告書を送付している。会議では、利用者の様子や事業所の行事、伝達事項などを報告することができているが、外部評価の内容や取組み状況などの報告までには至っていないため、今後は評価内容の一部をピックアップして分かりやすく記載したり、目標達成計画の取組み状況を報告したりするなど、より参加メンバーに理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	外部評価の結果など報告はしているがその後の取組状況まではできていない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	事前にご意見やお知らせなどを伺ったり、会議の結果を報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加できる職員のみを対象に時間帯や日時を調整している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ご家族様や松山市、地域包括支援センター、他の施設等に報告している。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を作成し、共通認識を持つよう職員にも知らし日常的に取り組むことができるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	毎回、運営推進会議の資料にも掲載してご理解いただくよう努めている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内等配布し奨励している。	/	/	/	他の介護サービス事業所を運営していることもあり、法人代表者は事業所へ来訪する機会は少ないものの、毎週統括マネージャーの来訪しているほか、ホーム長は電話などで相談することができる。事業所では、定期的に研修会を実施し、職員のスキルアップに努めている。職員から出された意見は、ホーム長を通して法人本部に届けることができ、法人・事業所として、職員の働きやすい職場環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的に現場で必要な研修を奨励し、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	社員が働き甲斐のある職場作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの影響で参加できていないが事業者交流会や他の施設の運営推進会議などに参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に2回、管理者や職員から職場環境や働き甲斐など自己評価表の提出を通して把握に努めている。	○	△	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会や身体拘束適正化委員会を開催し、検証している。	/	/	/	定期的に、事業所では虐待や不適切ケアなどの研修会を実施するほか、申し送り時などに、「言葉づかいを含め、何が不適切なケアにあたるのか」を職員間で話し合いをしている。また、定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、不適切なケアなどを話し合うことができている。また、全ての職員は、気になる行為が見られた場合の対応方法を理解できている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りに毎日同席したり、カンファレンスに参加したり、ケア方法についてスタッフやケアマネ、看護師と頻りに相談合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務状態を見ながら職員本人からも気軽に相談を受けるようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	パンフレットなどを取り寄せ相談にのったことがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	パンフレットなどを取り寄せ相談にのったことがある。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	入居時に相談を受け連携を取ったこともあるが現在はない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時対応マニュアルがある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年1回実施している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告やヒヤリハットの報告など職員間で共有し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	サービス計画書に上げ事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	相談苦情マニュアルを作成し周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談苦情マニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談苦情マニュアルに沿って対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設置し対応している。			◎	職員は利用者に声をかけて、意見や要望を聞いているほか、日々のかかわりの中で意見などを気づくことを心がけて支援している。家族には、電話で利用者の様子の連絡報告時などを活用して、意見を聞いている。また、事業所では、定期的に家族アンケートを無記名で実施しており、出された結果や意見をもとにして、ケアの振り返りやサービス向上に活かしている。さらに、日頃からホーム長は利用者や職員と会話やかかわる機会も多く、職員から意見や要望を聞き、利用者本位のサービスに活かせるよう取り組んでいる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	契約時に相談窓口を設置していることを伝え重要事項にも記載している	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時に相談窓口を設置していることを伝え重要事項にも記載している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	朝の申し送りに毎日同席したり、カンファレンスに参加したり、ケア方法についてスタッフや看護師と頻りに相談合っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	ユニット長会議や各ユニットからの相談にのったり指導を行なっている。			◎	



愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の結果や内容、目標達成計画については、運営推進会議の中で、参加メンバーや家族に報告をしている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーなどに、外部評価への結果の意見や提案を出してもらったり、取組み状況の確認のモニターを呼びかけたりするなど、サービスの向上に反映できるような取り組みを期待したい。また、外部評価の結果は、事業所内の廊下にも配置し、来訪者等はいつでも閲覧できるようにになっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	報告し、意識統一をはかっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告し、アドバイスを受けている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等で報告し、アドバイスを受けている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	コロナ禍の影響で例年の避難訓練と変更している部分はあるものの、実際に2階にいる利用者も一緒に屋外等へ避難訓練を行い、事業所として避難方法の再確認をしている。以前の事業所の訓練では、地域住民が避難訓練の様子を見学などをされていたこともあったが、現在のコロナ禍を含め、訓練への参加協力を得ることができていないため、火災や地震などの方が一の災害に備え、地域の防災訓練への参加時に再度協力を呼びかけるなど、協力体制が話し合える機会を持つような取組みを期待したい。また、事業所として、地域の防災訓練に参加協力することができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	マニュアルを作成し年に2回以上おこなうよう計画している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	毎日、夜間帯で確認している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	町内会に参加し、防災訓練など職員が中心に参加している。消防署は毎年訓練に立ち会っていただいていたが、コロナの影響で自主訓練となっている。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	町内会に参加し、防災訓練など職員が中心に参加している。消防署は毎年ホームの訓練に立ち会っていただいていたが、コロナの影響で自主訓練となっている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	日々の介護に追われ地域に向かって提案することはできていない。	/	/	/	事業所として、地域の高齢者や家族などに特段の相談支援の案内は行っていないが、相談があれば対応できる体制を整えている。事業所では、市内高校の福祉課の介護実習の受け入れにも協力している。また、事業所では、地域包括支援センターや近隣の他の介護サービス事業所など連携を取っており、相談や協力できる関係を構築している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	ご相談があればいつでも受けることはできるがこれまではできていない。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	夕涼み会など毎年開催し、地域の方にも参加をお願いしていたが昨年から中止している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	城南高校福祉課の生徒さんの介護実習場所として協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	包括支援センターなどが主催する福祉まつりなどに参加しているがこの2年程は開催されず参加できていない。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 2 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 19名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102401
事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	葉っぱ
記入者(管理者)	
氏名	西田 涼子
自己評価作成日	令和 3年 6月 24日

<p>【事業所理念】</p> <p>すみれグループ基本理念 利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p> <p>(葉っぱユニット)</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>サービス担当者会議に入居者や家族の参加をお願いする……できていない。</li> <li>入居者の反応や表情、心に残った言葉など日々の様子にも注目して入居者の理解を深め、モリタリングの根拠になる記録になるようにする……大分できるようになったと思う。</li> <li>外部評価の結果について運営推進会議棟で報告し参加できなかった家族には事業所入り口にファイル置いていつでも見ることができるようにした。</li> <li>外出の機会が少ない……コロナ下ではあるが近くの公園などに散歩に出かけたり、玄関先や駐車場を利用して昼食や日光浴など楽しんでいる。</li> </ol>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から少し入った場所にある2階建ての3ユニット事業所は、開設され20年目を迎える。事業所では、信頼し合える職員同士の良好なチームワークができていることもあり、比較的勤務歴の長い職員が多く、利用者の笑顔や「ありがとう」の声を励みにしながら、真摯に利用者へのサービス提供ができている。また、事業所では、家族も一緒に参加できる日帰りバス旅行に出かけたり、地域の運動会の観戦したりするなど、積極的に家族や地域との交流を深めている。現在のコロナ禍において、外出や行事は中止しているものの、事業所では駐車場を開放して屋外でランチを食べたり、近隣の公園まで散歩で出かけて缶コーヒーを飲んで一服してもらったりするなど、利用者が日常的に外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。さらに、事業所にある畑でなすやきゅうりなどの野菜づくりもしており、下肢筋力の低下傾向にある利用者が、安心安全に畑仕事が継続できるよう足場を整えるなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや役割を継続してもらいながら、張り合いのある毎日が送れるよう職員全員で取り組んでいる。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前にご本人、ご家族、ケアマネ等にご希望や不安なことなど聞き取りしている	◎	/	◎	入居前に、職員は利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。また、日々の関わりの中で知り得た利用者の思いや希望は、アセスメントシートや介護記録などの記録に残し、職員間で情報共有するようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご本人からお話を傾聴している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	事前にご本人、ご家族からこれまでの生活や好きなこと嫌なこと確認している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントをおこなうスタッフと共有しながら介護記録に落とし込んでいる	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	スタッフの視点ではなくご本人の思いなどを大切にしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前に家族やケアマネ、ご本人などと相談している	/	/	○	入居前に、職員は自宅などを訪問し、利用者や家族から馴染みの暮らしや生活環境などを聞いて把握し、アセスメントシートに記録している。入居前に利用者が利用していた介護サービス事業所や居宅介護事業所などから得た情報も個人のファイルに残しており、職員は以前の情報を確認することができる。また、アセスメントシートには、利用者の生活歴や趣味などが記録できているものの、更新内容や追記などの記録が分かりづらいため、日々の生活の中で新たに知り得た情報を分かりやすく色を変えて追記したり、定期的にシートの記載内容を更新したりすることを職員間で話し合うなど、どの職員が見ても利用者の人物像が把握しやすいような記録作成ができることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ご本人の生活をみてできることできないことを把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	事前にお話を伺い入居してから様子やご本人の訴えで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の暮らしの中で不安要素を把握してスタッフ間で共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や申し送りにてスタッフ間で共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ショートミーティングやサービス担当者会議などでご本人の視点に立った情報を共有している。	/	/	○	事業所では、利用者や家族、関係者から把握した情報をもとにして、担当者会議やユニット会議などの中で職員間で話し合いをしている。会議では、利用者の視点から必要としているサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	状況に応じてその都度話し合いを行なっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	サービス担当者会議などで課題を抽出している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	事前にお話を伺っているが入居してからもご様子を見ながらご本人の意向が反映されるよう心がけている。				職員は利用者や家族から意見を聞くほか、往診時に主治医の意見も聞くことができている。担当者会議に家族が参加できない場合には、事前に電話で意見を聞き、関係者などの意見を反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、「サービス担当者会議の要点」などの記録には、「家族から事前に電話で意見を聞いた」などの旨の記載があると分かりやすく、その後の記録の参考となるため、職員間で検討することを望みたい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人やご家族、医師や看護職員、介護職員、管理者、ケアマネなどと話し合って介護計画を立てている。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人やご家族、医師や看護職員、介護職員、管理者、ケアマネなどと話し合って介護計画を立てている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	地域の人達との協力体制はできていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	担当者会議やショートミーティングなどで課題を抽出し支援計画書に反映している。また確認のために支援計画書をコピーして介護記録のところに添付している。			◎	訪問調査日には、経過記録の摘要欄に介護計画の課題とサービス内容の番号が連動された記載様式となっており、日々の支援の中から介護計画の内容に沿った、分かりやすいサービス実施記録を確認することができた。利用者一人ひとりの経過記録には介護計画のサービス内容がファイルされており、職員は利用者の状況や計画内容をすぐに確認できるようになっている。また、経過記録や申し送り事項には、利用者の言動が記載されているほか、職員の気づきや工夫を記録するようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	担当者会議やショートミーティングなどで課題を抽出し支援計画書に反映している。また確認のために支援計画書をコピーして介護記録のところに添付している。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記載している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に記載したり、申し送り簿に記載している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	計画書の見直しや作成をおこないご家族様にご了解いただいている			◎	介護計画は、要介護認定の期間に応じて見直しをしている。毎月実施しているユニット会議の中で利用者の現状を確認し、モニタリングをしている。また、評価の際には利用者の課題やサービス内容などを検討しているほか、日常生活動作についても現状を確認し、記録に残すことができている。さらに、利用者の状態に変化があった場合には、随時計画の見直しを行い、現状に合った介護計画を作成するよう努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月担当者会議を開き現状確認を行なっている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	日常的に頻回にご家族やご本人、医師や看護師、ケアマネ、管理者などと密に連絡をとり話し合っ計画書に反映している。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	日常的に頻回に家族やご本人、医師や看護師、ケアマネ、管理者などと密に連絡をとり話し合っている。			◎	毎月、ユニット毎にユニット会議を実施し、利用者の状況やサービス内容などを検討している。毎日の申し送りに加えて、必要時には随時話し合いの場を設けている。また、会議に参加できない職員には前もって意見を申し出してもらうほか、出勤時には議事録を確認してもらう仕組みづくりをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から朝の申し送りやショートミーティング、気づいたときにすぐその場で気軽に話し合っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	月に1度ユニット会議を開き担当者会議を開催している。参加できない職員には事前報告や後日申し送り簿等で決まったことや計画書作成段階で意見徴収を行っている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加できない職員には事前に聞き取り、後日申し送り簿や会議録を見ていただいている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	月に1度ユニット会議を開催しサービス担当者会議も行なっている。			◎	毎日の申し送りのほか、月1回ユニット会議を開催し、口頭での伝達を徹底している。また、申し送り簿やユニット会議の議事録などを作成し、職員は出勤時などに確認する仕組みができており、事業所では、全ての職員が情報共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	月に1度ユニット会議を開き担当者会議を開催している。参加できない職員には事前報告や後日申し送り簿等で決まったことや計画書作成段階で意見徴収を行っている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個別にお部屋を訪問した時やお食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	/	食べたい物やその日に着たい服、食事を食べ始める時間など、職員は利用者の希望やペースに合わせた自己決定ができるよう支援している。自己決定ができていない利用者には、職員が選択肢を絞ったり、選びやすいような声かけをしたりしている。また、事業所では新聞や広告が利用者の目の届く場所に置いてあり、欲しい物や食べたい物などの会話につながることもある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	個別にお部屋を訪問した時や食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	分かりやすい言葉で伝え、ご本人に決めて頂くようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ご本人の希望や生活習慣を大切にしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	スタッフが明るい雰囲気作りをしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や言動、行動などからご本人の思いを受けとれるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	◎	○	○	去年からのコロナ禍において、外部研修に参加できる機会が限られているため、事業所では職員に人権や尊厳などを学んでもらうため、ホーム長が参考となる書籍を紹介して、全ての職員に感想文を提出してもらい、「利用者とかかわりやケアを行う上で、大切なことは何か」を考えてもらっている。中には、利用者や過ごす時間が長くなると、つい家族のような馴れ馴れしい言葉づかいなどが出してしまう場面が見られるため、職員同士で気をつけるようにしている。また、居室への入室時にはノックや声かけをすることができているものの、利用者の不在時にも職員がリビングにいる利用者へ一声かけて入室できるような仕組みづくりをするなど、職員間で検討することを望みたい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	できることはできる限り自分でできるように援助し、皆一緒にお手伝いなどお願いしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握しており、大きいトラブルになる前に、食事時の配席などを工夫している。男性利用者は少ないが、職員はプライドや性格に配慮しながら、孤立しないよう対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	一緒にお手伝いをしてもらったり、励ましてもらったり楽しいことを皆で一緒に行ない笑顔がでると職員も1日の疲れがとれ明日も頑張ろうと思うことがいっぱいある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	状況によっては席替えをしたり、順番などを配慮している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	状況によっては席替えをしたり、順番などを配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	ご家族様を中心に関わりのある方の面会などお願しているが現在は残念ながら面会ができないので大変申し訳なく思っている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様やご本人様のお話から一定程度把握しているつもりであったが実際は亡くなられた後、葬儀に参列して遺影(若いときの写真)を見るたびに初めてご入居者の本当の人名や暮らしぶりを教えられることがある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	ときどき知人、友人から連絡があり、訪ねて来ることがあるのは数例。入居されるまでにどのような状況であったかにもよるが認知症が進行し、交流が途絶えてしまったりして入居されることが多く、友人、知人との交流は少ない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっており、近くの公園まで散歩をしたり、駐車場を開放してお昼を外で食べたり(屋外ランチ)玄関先で日光浴をしたりしている。	○	○	○	日頃から、近隣の公園まで散歩したり、ドライブで買い物に出かけたり、家族と一緒に日帰りバス旅行をするなど、利用者が外出できるよう支援している。現在のコロナ禍において、面会や外出制限を設けていることもあり、外出できる機会が減っているものの、事業所では駐車場を開放して屋外でランチを食べたり、近隣の公園まで散歩で出かけて缶コーヒーを飲んで一服してもらったりするなど、利用者が日常的に外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。また、重度の利用者にも体調に配慮しながら、日光浴など外気に触れられるよう支援している。さらに、ホーム長等は、「全ての利用者と職員のワクチン接種が完了すれば、感染対策を行いながら徐々に外出の幅も広げていきたい」と考えている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力がも得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ下で昨年からのすべてのイベントを中止してボランティアの参加もお断りしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっており、近くの公園まで散歩をしたり、駐車場を開放してお昼を外で食べたり(屋外ランチ)玄関先で日光浴をしたりしている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	経験年数や資格取得の有無によって理解度はことなるが日々協力し合って理解に努めている				職員は、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを見極め、洗身や着替えなど自身でできることは自分でしてもらい、意識して職員が手を出しすぎないように見守り支援をしている。また、日常的に、洗濯物干しや足踏みの歩行訓練などを日常の動作の中に取り入れ、利用者の生活リハビリや心身機能の維持につながるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の健康チェックと状態変化に注意し、必要時は看護師や医師とも相談し早めの対応に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	サービス計画書にもできることはできるだけ自分でおこなうようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	ご本人やご家族様からの情報でこれまでの生活、習慣などを把握している。				日頃から、調理の下ごしらえや食器拭き、畑での野菜栽培など、事業所では利用者一人ひとりに役割と楽しみを持ちながら、張りのある毎日の生活が送れるように支援している。訪問調査日には、男性利用者が洗濯物を干しをしている様子を見ることができた。また、裁縫や編み物が得意な利用者には、入居後にも継続できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯物をたんでもらったり、その方の出来る範囲でお願いなどしている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ下地域との交流ができていない。				

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人やご家族様から情報をいただき、ご希望に合わせて準備を行なっている。				整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員は利用者にとりげなく声をかけをして、自分でできる利用者には自身で整えてもらうなど、プライドにも配慮した支援している。ベッド上で過ごすことが多い重度の利用者もいるが、毎日の更衣をしてもらい、昼夜の区別やメリハリをつけるよう支援している。また、病院で長くパジャマで過ごしていた利用者が事業所へ入居し、日中に服へ着替えることを拒否していたものの、職員が声かけを工夫しながら、着替えてもらえるようになった事例もある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご本人やご家族様からの情報やご希望に合わせて好みの服や持ち物、髪型などを整えさせていた				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	その都度、一緒に考え選んだりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その都度、一緒に考え選んだりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりしげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度、気をつけるようにしており、ご自分で整えてもらったり職員がそっとお手伝いしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ご希望があれば同行するが、現在は特になくホームに来られる方をお願いしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その都度、ご本人に合わせて行っている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	入居者にとって食事が1番の楽しみであることを職員全員が理解している。準備をするところから出来上がりまですぐそばで見ることができ、楽しい時間となっている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	次は何が食べたいと伺ったり、食事が美味しかったどうかは良く伺う。食器を拭いてもらったりすることもある。				○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	次は何が食べたいと伺ったり、食事が美味しかったどうかは良く伺う。食材の買い出しや調理、盛り付け、後かたづけはできていない。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご本人やご家族様から得た情報を基に苦手なもの、アレルギーの有無などを把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	ご本人やご家族様から得た情報を基に苦手なもの、アレルギーの有無などを把握している。また季節感を感じさせる食材の注文や献立を行なっている。				○		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の咀嚼、嚥下状態や体調に合わせて調理の仕方や盛り付けなどを工夫しているが誤嚥防止のためにどうしても必要な人にはトミをつけたり、ミキサー食としている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時には必ずご家族様にこれまで使われた食器など持って来ていただくようにしている。				◎		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べたり、食事介助をしながら入居者の様子を観察している。				○		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	台所がすぐそばにあり、調理をしているところをみることができる。			◎	○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一緒に食べながら食事量や水分量を毎回チェックしている。						
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一緒に食べながら食事量や水分量、咀嚼の状態を毎回観察しており、必要に応じて対応している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士はいないのでアドバイスは受けていないが献立を立てる者、調理する者がときどき意見交換を行っている。糖尿病や高血圧症の方など医師から体重や塩分の摂りすぎに注意するように言われている方については気をつけている。				○		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は常に新鮮な物を使用するように乾物や調味料以外は細かく発注し、献立に合わせて日付を記入するなど衛生管理を日常的に行なっている。						



愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ個々の入居者の状態把握と誤嚥性肺炎などの知識を教わっている。				毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。定期的に、事業所には訪問歯科の往診があり、利用者の口腔内の状況を確認してもらい、伝えてもらっている。また、職員は歯科衛生士から口腔ケアのアドバイスを受けており、口腔ケアの重要性を教えてもらっている。また、認知症の進行など、口腔ケアが苦手な利用者もあり、職員は状況やタイミングを見計らいながら、介助するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ個々の入居者の口の中の状態や誤嚥性肺炎などの知識を教わっている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ口腔ケアの正しい方法について教わっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	できる方には毎回義歯の手入れを指導、後はこちらで仕上げを行なっている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後のケアを毎回行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生士の指導を受け入れ個々の入居者の状態把握に努めている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	認知症の進行からトイレ介助が難しいなどやむを得ない方以外はオムツを使用せずトイレ介助としている。尿意がなかったり、間に合わないなどの事情で紙パンツやパッドを使用している方が多い。				事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として支援している。トイレに間に合わず、失禁してしまうこともあり、事業所ではリハビリパンツを使用している利用者も多い。夜間に、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、職員は利用者のトイレに行きたいサインやタイミングを見逃さないようにして、一人ひとりに合わせた声かけやトイレ誘導を行い、パッドなどの排泄用品に頼りすぎず、トイレで気持ちよく排泄できるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食欲減退、嘔吐、夜間不眠、不穏などからいつもと異なる様子で影響を理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングや担当者会議などで話し合い見直している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングなどで話し合い看護師や医師とも相談し取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄介助から日々の様子を申し送りし、早めの対応ができるようにしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄介助から日々の様子を申し送り、ご本人やご家族様とも相談しながら行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送りし、ご本人やご家族様とも相談しながら行っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングなどで話し合い実行している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	できるだけ入居者の都合やご希望に合わせて支援しているが時間帯など職員の都合に合わせていただくことが多い。	◎		○	利用者は、週2回を基本として入浴することができる。汚れなどの状況により、入浴の必要性がある利用者には、毎日のシャワー浴などの対応もしている。入浴が苦手な利用者には、入浴日をカレンダーに記載したり、無理な入浴とならないように対応したりするなど、利用者自身の心理的負担がないよう支援している。また、利用者の希望の湯の温度にしたり、好みの入浴剤を入れたりするなど、職員は入浴が気分転換となるよう心がけて支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	リラックスできるよう心掛けて介助に当たっている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身などできるところはご本人にお願いしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、本人と相談してカレンダーなどに予定日を入れておこなっている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎日の健康チェックや入浴前のバイタルチェックなどで入浴の可否など決めている。				

愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の就寝時間や夜勤者からの報告などから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	入居前から継続して眠剤などを服薬している利用者もいるものの、事業所では日中の過ごし方の工夫して、夜間安眠できるよう努めている。また、事業所では、利用者の体調面や状態に考慮し、主治医と相談しながら服薬を中止した利用者もいるなど、安易に薬剤に頼らないような支援をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間眠りが浅かったり、早朝覚醒など個々の様子に合わせて個別の離床介助を行っている。昼夜逆転にならないよう生活リズムにも注意して対応している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の状態観察から医師とも相談しながら行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午前、午後とお部屋でゆっくり横になって過ごせる時間をとっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	昨年から面会制限が続いているため電話でお話ができるようにしている。また、ご利用を希望されるご家族にはリモートによる面会を行なっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	昨年から面会制限が続いているため電話でお話ができるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご家族様からの連絡がほとんどであるが、ご希望があればいつでもできるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人に直接渡して読んでもらっている。読めない場合は代読も行っている。お荷物が届いたときにはご家族様や送り主に受け取ったことを伝えている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会ができないため電話やお手紙をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	ご本人が希望すればお金の所持は可能としている。ただし、小口現金をお預かりしているので必要時はいつでも出せるため小額でお願いしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	外出制限があるためお金を使う機会がほとんどない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	予約を取る必要がある場所、レストランなどでは事前にご協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	入居時に確認をおこなっており、必要時はご家族様に報告、相談を行なっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に確認をおこなっており、必要時はご家族様に報告、相談を行なっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	各ユニットで小口現金として管理し、毎月本部を通して領収書の送付やや残高を報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	必要時はご本人やご家族様と相談して柔軟に取り組んでいる。	/	◎	○	事業所では、利用者や家族の希望に沿って、マッサージなどの外部サービスを取り入れたり、家族と一緒に外出したり、夜間の面会希望にも応じるなど、柔軟な対応をしている。現在のコロナ禍において、事業所には面会や外出制限が設けられているため、実現できていない部分はあるが、職員は可能な限り対応できるよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先にプランターなど配置し、季節の小花などを植えつけ親しみやすいように取り組んでいる。	◎	○	○	国道から少し入った場所に事業所があり、分かりやすいように案内板が設置されている。ガラス扉で明るく開放的な玄関は、同じ建物内にあるデイサービスと一緒に使用している。また、建物の正面には事務室があり、来訪者は声をかけやすくなっているほか、プランターには季節の草花が植えられている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	入居者の個室の家具はそれぞれご自宅で使用されていた馴染みのあるものが置かれ、外出やイベント、日帰り旅行の写真など展示できるだけ住み慣れたホームになるよう努力している。	◎	◎	○	ワンフロアにキッチンとリビングがあり、利用者同士や職員はアットホームな距離感で過ごすことができている。リビングや居室から、事業所の畑を眺められるほか、窓を開放していると小鳥が入ってくることもあり、利用者は自然な風景や外気を感じることができている。また、事業所は開設して年月が経過しているものの、必要な所を補修したり、こまめな清掃をしたりするなど、気持ちの良い空間となるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	更衣や洗濯、ベッドを整えたりお部屋の掃除など毎日に行ない入居者が清潔で気持ちがいいように取り組んでいる。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	入居者同士がお話するのにもちょうど良い距離にあることから会話が弾む。スタッフや入居者同士がお互いすぐそばにいて安心感がある。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	午前、午後とお部屋でゆっくり横になって過ごせる時間をとっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	介助の際は戸を閉めプライバシーを守るようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家具は無論、衣類や被り物、履物などご本人やご家族様が選んだ物を用意させていただいている。	◎		◎	居室はベッドとエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けてある。元の企業の寮を改修したこともあり、居室にあるコンロは使用できないようにしているものの、ミニキッチンや冷蔵庫、水道も設置されており、利用者の洗面や整容にも使用することができる。また、居室には、馴染みの家具や仏壇を持ち込むことができるほか、畳を敷いている部屋もあり、利用者にとって居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	お部屋を間違えないようにドア飾りしたり、お名前を書いたり、トイレの表示を少し大きくしたり工夫している。				事業所では、利用者が分かりやすいよう浴室やトイレの表示を工夫している。利用者が日時を確認しやすいように、リビングや居室には、時計やカレンダーを設置している。事業所は元の企業の寮を改修して活用しており、構造上でリビングから居室の場所が見えない位置に設置されているため、利用者の安全に配慮して、居室までの移動は職員が見守りや介助をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	スタッフ間で相談しながら取り組んでいる。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	コップや箸など馴染みの物を日常生活でそのまま使用して頂いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットの入り口や玄関など日中に鍵をかけることはない。事故防止のためにドアの入り口にセンサーを設置して早めに対処できるようにしている。	◎	◎	○	玄関の自動ドアは、日中を含めて22時ぐらいまで稼働させているが、各ユニットの入り口は夜勤職員が1名になる17時には施錠するようにしている。各ユニット入り口にはセンサーの設置があり、利用者や来訪者の出入り時にはセンサーの音で職員は確認することができる。また、外に出ようとする利用者には、職員が付き添ったり、声をかけをしたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	今は新型コロナのため面会制限を行なっているが普段はいつでも面会が自由にでき、ご家族様とも外出ができることをお伝えし、理解をいただいている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	今は新型コロナのため面会制限を行なっているが普段はいつでも面会が自由にでき、ご家族様とも外出ができることをお伝えし、理解をいただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居相談や訪問調査、退院時サマリー、診療情報提供書、入居時アセスメントなどから情報を整理し介護サービス計画書に反映するなど知らしめている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護サービス計画書に盛り込まれた医療情報を基に日々の様子やバイタルチェックなどから早めに対応ができるようになっている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療連携をはじめ、ユニット毎に配置された看護職員とも気軽に相談ができ、担当医とも電話や往診時にいつでも相談指示をいただくようになっている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	担当医やご家族様と相談し、適切に支援できている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	担当医やご家族様と相談し、適切に支援できている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診前や受診後、その後の様子などご家族様に必ず報告し、ご了解をいただいている。また担当医にはご家族様のご希望やご意向など伝えている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	担当医から入院先の医師に診療情報を送っていただいたり、ホームでの介護情報をお渡ししたり、入院先の聞き取りに応じている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院先が行う治療進捗状況に伴うカンファレンスや退院前カンファレンスにご家族様と一緒に参加したりして情報交換を行なっている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	医療相談室や地域連携室と連絡を取り合って情報交換を行なっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医療連携を行っており、各ユニットの情報を看護職が把握している。また各ユニットには看護職員も配置していることから介護職はいつでも相談ができるようになっている。訪問看護の必要時は担当医からの指示で、ご家族様のご了解をいただき受け入れている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関が2か所、歯科診療が1か所と契約を結び歯科を除き24時間体制でいつでも相談、指示を受けることができるようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	協力医療機関が2か所、歯科診療が1か所と契約を結び歯科を除き24時間体制でいつでも相談、指示を受けることができるようになっている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	往診時や電話相談時に医師から説明を受けたり、薬が届いた際に薬剤師から薬の説明を受けたり、処方箋に書かれたない内容を読んで理解するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	入居者一人一人の薬の管理を行ない、提供時には毎回複数(2名)で確認している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	夜間の就寝状況や食欲、排泄状況、身体の痛みや浮腫み、バイタルの様子など日常的に観察を行なっている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	夜間の就寝状況や食欲、排泄状況、身体の痛みや浮腫み、バイタルの様子など日常的に観察を行なって情報提供を行なっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ホーム入居時に重度化した場合の対応についての看取り指針を提示し、必要時は看取りのカンファレンスなど実施し、ご本人やご家族様のご意向などをしっかりと伺っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明している。事業所では、24時間体制で主治医との連携が構築されており、看護師や職員などを合わせて話し合い、方針を共有している。また、利用者が重度化した場合には、利用者や家族の意向を確認しながら関係者で話し合い、看取り介護を実施している。また、看取り後には、ユニット長や経験のある職員が家族や職員の気持ちの面でのフォローをしているほか、職員間で看取り介護の振り返りの話し合いを実施するなど、チームでの看取り支援にも取り組んでいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ホーム入居時に重度化した場合の対応についての看取り指針を提示し、必要時は看取りのカンファレンスなど実施し、ご本人やご家族様のご意向などをしっかりと伺っている。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	状態が変わっていく様子を職員から常に報告を受け、ご本人やご家族、医師や看護師、看護職員、介護職員の連携体制がどのようにできているか常に確認するようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りの指針に基づき、ホームでできること出来ないことを説明して理解いただいている。また、必要に応じてカンファレンスを開き医師を交えご家族の意思を確認している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	カンファレンスを開き、ご家族様の意向や主治医の説明などを受け準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	亡くなる直前に、できるだけ最後をご家族様と一緒に過ごせるよう刻々と変化する様子を細かに観察し、ご家族様に早めに連絡して看取りができるよう面会に来てもらっている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症についてはこれまでは年に1回から2回程度学習会を開催していたが、新型コロナに関しては松山市をはじめ、愛媛県や本社からの情報をもとに注意喚起をおこなっている。職員全員のPCR検査を実施したり、できるだけ県外に出ないように通達したりしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染予防が中心で簡易な防護服やマスク、手袋、消毒の用意。廊下や手すり、トイレの消毒、手指消毒、手洗い励行、入居者のユニット間交流、デイサービスとの交流中止などしているが、発症した場合に備えて訓練は特にできていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	携帯やスマートホン、テレビ、ラジオなど情報伝達機器を通じて毎日のように新しい情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	携帯やスマートホン、テレビ、ラジオなど情報伝達機器を利用して毎日のように新しい情報収集に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員には出勤前の検温の義務付けや手洗い、うがい、手指消毒を奨励し、来訪者には玄関先での手指消毒、検温、名簿への記載などをお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	ご家族様とはいつでも連絡を取り合っておりスタッフができないことを聞いて頂いたり、食思不振の方などご家族様の協力いただいている。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所からクリスマス会や日帰りバス旅行などの行事開催の案内を家族に送付し、毎年参加協力を得て開催することができていた。現在のコロナ禍において、家族に行事の案内することはできていないが、請求書などの書類の送付時に、担当職員から手紙に写真を添えて、日頃の利用者の様子を伝えている。また、事業所では、現在面会制限を設けていることもあり、電話連絡のほか、LINEのテレビ電話を活用してオンラインでの面会ができる工夫をしており、少しでも家族に利用者の顔が見えて交流ができるようにしている。また、全ての家族には、運営推進会議の参加案内のほか、議事録も送付しており、事業所の出来事や利用者の様子などを伝えている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナの影響で現在は難しいがいつでも自由に面会ができるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	コロナの影響で現在は現在は難しいがデイサービスとの合同行事や夕涼み会、日帰りバス旅行などに参加していただきご入居者との思いで作りを行なっている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	お手紙や電話、ユニットニュース、運営推進会議の報告書等でご入居者の暮らしぶりや日常の様子を報告することができる。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	お手紙や電話、ユニットニュース、運営推進会議の報告書等でご入居者の暮らしぶりや日常の様子を報告することができる。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	できれば面会を多くしてご本人様のご様子を直接お知らせしたいところですが、現状では難しいため、電話やお手紙などでご様子をお知らせしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	コロナ下、面会の事や運営推進会議の案内、報告、職員の移動など報告を行っている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナの影響で現在はできていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時やその後の様子からご家族様に説明、報告し、ご相談にのって頂いている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	ご家族様とは頻りに連絡を取り合っており、ご様子を伝えて、ご相談にものって頂いている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時をはじめ退去時にも詳しく説明し、契約内容の変更などについてもご家族様にお伝えし、ご了解を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	ご本人が希望され介護支援事業所について在宅に戻り、デイサービスの利用に至ったケースが1件ある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	パンフレットを作成し、入居相談時や入居契約の際に詳しく説明し、ご了解をいただいている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設時から町内会に参加して地域の行事に入居者と一緒に参加してきた。また、ホームの各種行事にも参加をお願いし、ホームの役割についてご理解、ご協力いただけるよう努めている。	/	○	/	事業所の開設当初から町内会に加入し、利用者と一緒に地域行事に参加したり、散歩時には地域住民とあいさつを交わしたりするなど、積極的に地域とのかわりを持っている。毎年、利用者が地域の運動会に招待されたり、事業所の夏祭りに地域住民の参加協力を得たりするなど、地域との交流を深めている。現在のコロナ禍において、様々な地域行事が中止になっているものの、散歩途中で地域住民と会話したり、事業所の畑で収穫した野菜を近隣住民にお裾分けしたりするなどの交流が継続できている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	開設時から町内会に参加して地域の行事に入居者と一緒に参加してきた。また、ホームの各種行事にも参加をお願いし、ホームの役割についてご理解、ご協力いただけるよう努めている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	はじめの頃は玄関先に張り紙をされたりして、一部の方から反発もあったがその後はなくなり、入居者が地域の行事に参加しても温かく声をかけて下さり、散歩の途中話しかけたりして下さる。職員も通リすがりにご挨拶が自然にできている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	この1年程は無いがそれまでは町内会長さんなどがときどき通リすがりにホームに立ち寄り下さることがあった。今でも道端で会うと「ホームは(感染者を出さず)によく頑張っている」とほめて下さる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	朝の挨拶や庭の手入れをされている方との談笑など行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍以前は紙芝居やお話相手に近くの方がボランティアで来られていたが、高齢を理由にやめられてからは来られていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	以前は町内会の行事に参加されていたが、現在はコロナのためなし。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署の方々のご理解とご協力で毎年、定期的に防火訓練や防災訓練を行なっている。また、入居者の理美容に外部から来ていただきご協力いただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	この1年間は文書開催となり直接お会いする機会が無いが、ご意見やご希望を伺うようにしている。	/	◎	◎	新型コロナウイルス感染症予防のため、現在の運営推進会議は職員のみで開催している。事前に家族の意見を聞き、会議の参加メンバーに報告書を送付している。会議では、利用者の様子や事業所の行事、伝達事項などを報告することができているが、外部評価の内容や取組み状況などの報告までには至っていないため、今後は評価内容の一部をピックアップして分かりやすく記載したり、目標達成計画の取組み状況を報告したりするなど、より参加メンバーに理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	外部評価の結果など報告はしているがその後の取組状況まではできていない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	事前にご意見やお知らせなどを伺ったり、会議の結果を報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加できる職員のみを対象に時間帯や日時を調整している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ご家族様や松山市、地域包括支援センター、他の施設等に報告している。	/	/	/	



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を作成し、共通認識を持つよう職員にも知らし日常的に取り組むことができるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	毎回、運営推進会議の資料にも掲載してご理解いただくよう努めている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内等配布し奨励している。	/	/	/	他の介護サービス事業所を運営していることもあり、法人代表者は事業所へ来訪する機会は少ないものの、毎週統括マネージャーの来訪しているほか、ホーム長は電話などで相談することができる。事業所では、定期的に研修会を実施し、職員のスキルアップに努めている。職員から出された意見は、ホーム長を通して法人本部に届けることができ、法人・事業所として、職員の働きやすい職場環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的に現場で必要な研修を奨励し、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	社員が働き甲斐のある職場作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの影響で参加できていないが事業者交流会や他の施設の運営推進会議などに参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に2回、管理者や職員から職場環境や働き甲斐など自己評価表の提出を通して把握に努めている。	○	△	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会や身体拘束適正化委員会を開催し、検証している。	/	/	/	定期的に、事業所では虐待や不適切ケアなどの研修会を実施するほか、申し送り時などに、「言葉づかいを含め、何が不適切なケアにあたるのか」を職員間で話し合いをしている。また、定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、不適切なケアなどを話し合うことができている。また、全ての職員は、気になる行為が見られた場合の対応方法を理解できている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りに毎日同席したり、カンファレンスに参加したり、ケア方法についてスタッフやケアマネ、看護師と頻りに相談し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務状態を見ながら職員本人からも気軽に相談を受けようとしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	パンフレットなどを取り寄せ相談にのったことがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	パンフレットなどを取り寄せ相談にのったことがある。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	入居時に相談を受け連携を取ったこともあるが現在はない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時対応マニュアルがある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年1回実施している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告やヒヤリハットの報告など職員間で共有し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	サービス計画書に上げ事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	相談苦情マニュアルを作成し周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談苦情マニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談苦情マニュアルに沿って対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設置し対応している。			◎	職員は利用者に声をかけて、意見や要望を聞いているほか、日々のかかわりの中で意見などを気づくことを心がけて支援している。家族には、電話で利用者の様子の連絡報告時などを活用して、意見を聞いている。また、事業所では、定期的に家族アンケートを無記名で実施しており、出された結果や意見をもとにして、ケアの振り返りやサービス向上に活かしている。さらに、日頃からホーム長は利用者や職員と会話やかかわる機会も多く、職員から意見や要望を聞き、利用者本位のサービスに活かせるよう取り組んでいる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	契約時に相談窓口を設置していることを伝え重要事項にも記載している	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時に相談窓口を設置していることを伝え重要事項にも記載している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	朝の申し送りに毎日同席したり、カンファレンスに参加したり、ケア方法についてスタッフや看護師と頻りに相談合っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	ユニット長会議や各ユニットからの相談にのったり指導を行なっている。			◎	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し取り組んでいる。				外部評価の結果や内容、目標達成計画については、運営推進会議の中で、参加メンバーや家族に報告をしている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーなどに、外部評価への結果の意見や提案を出してもらったり、取組み状況の確認のモニターを呼びかけたりするなど、サービスの向上に反映できるような取り組みを期待したい。また、外部評価の結果は、事業所内の廊下にも配置し、来訪者等はいつでも閲覧できるようにになっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	報告し、意識統一をはかっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告し、アドバイスを受けている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等で報告し、アドバイスを受けている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し周知している。				コロナ禍の影響で例年の避難訓練と変更している部分はあるものの、実際に2階にいる利用者も一緒に屋外等へ避難訓練を行い、事業所として避難方法の再確認をしている。以前の事業所の訓練では、地域住民が避難訓練の様子を見学などをされていたこともあったが、現在のコロナ禍を含め、訓練への参加協力を得ることができていないため、火災や地震などの方が一の災害に備え、地域の防災訓練への参加時に再度協力を呼びかけるなど、協力体制が話し合える機会を持てるような取組みを期待したい。また、事業所として、地域の防災訓練に参加協力することができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	マニュアルを作成し年に2回以上おこなうよう計画している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	毎日、夜間帯で確認している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	町内会に参加し、防災訓練など職員が中心に参加している。消防署は毎年訓練に立ち会っていただいていたが、コロナの影響で自主訓練となっている。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	町内会に参加し、防災訓練など職員が中心に参加している。消防署は毎年ホームの訓練に立ち会っていただいていたが、コロナの影響で自主訓練となっている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	日々の介護に追われ地域に向かって提案することはできていない。				事業所として、地域の高齢者や家族などに特段の相談支援の案内は行っていないが、相談があれば対応できる体制を整えている。事業所では、市内高校の福祉課の介護実習の受け入れにも協力している。また、事業所では、地域包括支援センターや近隣の他の介護サービス事業所など連携を取っており、相談や協力できる関係を構築している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	ご相談があればいつでも受けることはできるがこれまではできていない。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	夕涼み会など毎年開催し、地域の方にも参加をお願いしていたが昨年から中止している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	城南高校福祉課の生徒さんの介護実習場所として協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	包括支援センターなどが主催する福祉まつりなどに参加しているがこの2年程は開催されず参加できていない。			○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 2 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 19名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102401
事業所名 (ユニット名)	グループホーム すみれの家 花
記入者(管理者) 氏名	西田 涼子
自己評価作成日	令和 3年 6月 24日

<p>【事業所理念】</p> <p>すみれグループ基本理念 利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p> <p>(花ユニット)</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>サービス担当者会議に入居者や家族の参加をお願いする……できていない。</li> <li>入居者の反応や表情、心に残った言葉など日々の様子にも注目して入居者の理解を深め、モリタリングの根拠になる記録になるようにする……大分できるようになったと思う。</li> <li>外部評価の結果について運営推進会議棟で報告し参加できなかった家族には事業所入り口にファイルを置いていつでも見ることができるようにした。</li> <li>外出の機会が少ない……コロナ下ではあるが近くの公園などに散歩に出かけたり、玄関先や駐車場を利用して昼食や日光浴など楽しんでいる。</li> </ol>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から少し入った場所にある2階建ての3ユニット事業所は、開設され20年目を迎える。事業所では、信頼し合える職員同士の良好なチームワークができており、比較的勤務歴の長い職員が多く、利用者の笑顔や「ありがとう」の声を励みにしながら、真摯に利用者へのサービス提供ができています。また、事業所では、家族と一緒に参加できる日帰りバス旅行に出かけたり、地域の運動会の観戦したりするなど、積極的に家族や地域との交流を深めている。現在のコロナ禍において、外出や行事は中止しているものの、事業所では駐車場を開放して屋外でランチを食べたり、近隣の公園まで散歩で出かけて缶コーヒーを飲んで一服してもらったりするなど、利用者が日常的に外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。さらに、事業所にある畑でなすやきゅうりなどの野菜づくりもしており、下肢筋力の低下傾向にある利用者が、安心安全に畑仕事が継続できるよう足場を整えるなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや役割を継続してもらいながら、張り合いのある毎日が送れるよう職員全員で取り組んでいる。</p>
--	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前にご本人、ご家族、ケアマネ等にご希望や不安なことなど聞き取りしている	◎	/	◎	入居前に、職員は利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。また、日々の関わりの中で知り得た利用者の思いや希望は、アセスメントシートや介護記録などの記録に残し、職員間で情報共有するようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご本人からお話を傾聴している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	事前にご本人、ご家族からこれまでの生活や好きなこと嫌なことなど確認している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントをおこなうスタッフと共有しながら介護記録に落とし込んでいる	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	スタッフの視点ではなくご本人の思いなどを大切にしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前に家族やケアマネ、ご本人などと相談している	/	/	○	入居前に、職員は自宅などを訪問し、利用者や家族から馴染みの暮らしや生活環境などを聞いて把握し、アセスメントシートに記録している。入居前に利用者が利用していた介護サービス事業所や居宅介護事業所などから得た情報も個人のファイルに残しており、職員は以前の情報を確認することができる。また、アセスメントシートには、利用者の生活歴や趣味などが記録できているものの、更新内容や追記などの記録が分かりづらいため、日々の生活の中で新たに知り得た情報を分かりやすく色を変えて追記したり、定期的にシートの記載内容を更新したりすることを職員間で話し合うなど、どの職員が見ても利用者の人物像が把握しやすいような記録作成ができることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ご本人の生活をみてできることできないことを把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	事前にお話を伺い入居してから様子やご本人の訴えで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の暮らしの中で不安要素を把握してスタッフ間で共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や申し送りにてスタッフ間で共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ショートミーティングやサービス担当者会議などでご本人の視点に立った情報を共有している。	/	/	○	事業所では、利用者や家族、関係者から把握した情報をもとにして、担当者会議やユニット会議などの中で職員間で話し合いをしている。会議では、利用者の視点から必要としているサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	状況に応じてその都度話し合いを行なっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	サービス担当者会議などで課題を抽出している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	事前にお話を伺っているが入居してからもご様子を見ながらご本人の意向が反映されるよう心がけている。	/	/	/	職員は利用者や家族から意見を聞くほか、往診時に主治医の意見も聞くことができている。担当者会議に家族が参加できない場合には、事前に電話で意見を聞き、関係者などの意見を反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、「サービス担当者会議の要点」などの記録には、「家族から事前に電話で意見を聞いた」などの旨の記載があると分かりやすく、その後の記録の参考となるため、職員間で検討することを望みたい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人やご家族、医師や看護職員、介護職員、管理者、ケアマネなどと話し合って介護計画を立てている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人やご家族、医師や看護職員、介護職員、管理者、ケアマネなどと話し合って介護計画を立てている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	地域の人達との協力体制はできていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	担当者会議やショートミーティングなどで課題を抽出し支援計画書に反映している。また確認のために支援計画書をコピーして介護記録のところに添付している。	/	/	◎	訪問調査日には、経過記録の摘要欄に介護計画の課題とサービス内容の番号が連動された記載様式となっており、日々の支援の中から介護計画の内容に沿った、分かりやすいサービス実施記録を確認することができた。利用者一人ひとりの経過記録には介護計画のサービス内容がファイルされており、職員は利用者の状況や計画内容をすぐに確認できるようになっている。また、経過記録や申し送り事項には、利用者の言動が記載されているほか、職員の気づきや工夫を記録するようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	担当者会議やショートミーティングなどで課題を抽出し支援計画書に反映している。また確認のために支援計画書をコピーして介護記録のところに添付している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記載している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に記載したり、申し送り簿に記載している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	計画書の見直しや作成をおこないご家族様にご了解いただいている	/	/	◎	介護計画は、要介護認定の期間に応じて見直しをしている。毎月実施しているユニット会議の中で利用者の現状を確認し、モニタリングをしている。また、評価の際には利用者の課題やサービス内容などを検討しているほか、日常生活動作についても現状を確認し、記録に残すことができている。さらに、利用者の状態に変化があった場合には、随時計画の見直しを行い、現状に合った介護計画を作成するよう努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月担当者会議を開き現状確認を行なっている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	日常的に頻回にご家族やご本人、医師や看護師、ケアマネ、管理者などと密に連絡をとり話し合っ計画書に反映している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	日常的に頻回に家族やご本人、医師や看護師、ケアマネ、管理者などと密に連絡をとり話し合っている。	/	/	◎	毎月、ユニット毎にユニット会議を実施し、利用者の状況やサービス内容などを検討している。毎日の申し送りに加えて、必要時には随時話し合いの場を設けている。また、会議に参加できない職員には前もって意見を申し出してもらうほか、出勤時には議事録を確認してもらう仕組みづくりをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から朝の申し送りやショートミーティング、気づいたときにすぐその場で気軽に話し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	月に1度ユニット会議を開き担当者会議を開催している。参加できない職員には事前報告や後日申し送り簿等で決まったことや計画書作成段階で意見徴収を行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加できない職員には事前に聞き取り、後日申し送り簿や会議録を見ていただいている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	月に1度ユニット会議を開催しサービス担当者会議も行なっている。	/	/	◎	毎日の申し送りのほか、月1回ユニット会議を開催し、口頭での伝達を徹底している。また、申し送り簿やユニット会議の議事録などを作成し、職員は出勤時などに確認する仕組みができており、事業所では、全ての職員が情報共有できるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	月に1度ユニット会議を開き担当者会議を開催している。参加できない職員には事前報告や後日申し送り簿等で決まったことや計画書作成段階で意見徴収を行っている。	◎	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個別にお部屋を訪問した時やお食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	/	食べたい物やその日に着たい服、食事を食べ始める時間など、職員は利用者の希望やペースに合わせた自己決定ができるよう支援している。自己決定ができていない利用者には、職員が選択肢を絞ったり、選びやすいような声かけをしたりしている。また、事業所では新聞や広告が利用者の目の届く場所に置いてあり、欲しい物や食べたい物などの会話につながることもある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	個別にお部屋を訪問した時や食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個別にお部屋を訪問した時や食事のとき、おやつ時間、お茶の時間などいつでもどこでもお話を伺っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ご本人の希望や生活習慣を大切にしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	スタッフが明るい雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や言動、行動などからご本人の思いを受けとれるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	◎	○	○	去年からのコロナ禍において、外部研修に参加できる機会が限られているため、事業所では職員に人権や尊厳などを学んでもらうため、ホーム長が参考となる書籍を紹介して、全ての職員に感想文を提出してもらい、「利用者とのかかわりやケアを行う上で、大切なことは何か」を考えてもらっている。中には、利用者や過ごす時間が長くなると、つい家族のような馴れ馴れしい言葉づかいなどが出てしまう場面が見られるため、職員同士で気をつけるようにしている。また、居室への入室時にはノックや声かけをすることができているものの、利用者の不在時にも職員がリビングにいる利用者へ一声かけて入室できるような仕組みづくりをするなど、職員間で検討することを望みたい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ケアに当たる際の声かけや介助の方法について気が付くことがあればお互いに注意しあっている。年に1回ほどではあるが参考になる本などを紹介し、感想文などを提出してもらっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	できることはできる限り自分でできるように援助し、皆一緒にお手伝いなどお願いしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握しており、大きいトラブルになる前に、食事時の配席などを工夫している。男性利用者は少ないが、職員はプライドや性格に配慮しながら、孤立しないよう対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	一緒にお手伝いをしてもらったり、励ましてもらったり楽しいことを皆で一緒に行ない笑顔がでると職員も1日の疲れがとれ明日も頑張ろうと思うことがいっぱいある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	状況によっては席替えをしたり、順番などを配慮しているが花ユニットではリビングが狭いせいかコミュニケーションが取りやすくお互い立場を理解して助け合っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	状況によっては席替えをしたり、順番などを配慮している。	/	/	/	



愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	ご家族様を中心に関わりのある方の面会などお願いしているが現在は残念ながら面会ができないので大変申し訳なく思っている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様やご本人様のお話から一定程度把握しているつもりであったが実際は亡くなられた後、葬儀に参列して遺影(若いときの写真)を見るたびに初めてご入居者の本当の人名や暮らしぶりを教えられることがある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	ときどき知人、友人から連絡があり、訪ねて来ることがあるのは数例。入居されるまでにどのような状況であったかにもよるが認知症が進行し、交流が途絶えてしまったりして入居されることが多く、友人、知人との交流は少ない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっており、近くの公園まで散歩をしたり、駐車場を開放してお昼を外で食べたり(屋外ランチ)玄関先で日光浴をしたりしている。	○	○	○	日頃から、近隣の公園まで散歩したり、ドライブで買い物に出かけたり、家族と一緒に日帰りバス旅行をするなど、利用者が外出できるよう支援している。現在のコロナ禍において、面会や外出制限を設けていることもあり、外出できる機会が減っているものの、事業所では駐車場を開放して屋外でランチを食べたり、近隣の公園まで散歩で出かけて缶コーヒーを飲んで一服してもらったりするなど、利用者が日常的に外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。また、重度の利用者にも体調に配慮しながら、日光浴など外気に触れられるよう支援している。さらに、ホーム長等は、「全ての利用者と職員のワクチン接種が完了すれば、感染対策を行いながら徐々に外出の幅も広げていきたい」と考えている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ下で昨年からのすべてのイベントを中止してボランティアの参加もお断りしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっており、近くの公園まで散歩をしたり、駐車場を開放してお昼を外で食べたり(屋外ランチ)玄関先で日光浴をしたりしている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ下で昨年からの面会制限や外出制限を行なっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	経験年数や資格取得の有無によって理解度はことなるが日々協力し合って理解に努めている				職員は、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを見極め、洗身や着替えなど自身でできることは自分でしてもらい、意識して職員が手を出しすぎないように見守り支援をしている。また、日常的に、洗濯物干しや足踏みの歩行訓練などを日常の動作の中に取り入れ、利用者の生活リハビリや心身機能の維持につながるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の健康チェックと状態変化に注意し、必要時は看護師や医師とも相談し早めの対応に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	サービス計画書にもできることはできるだけ自分でおこなうようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	ご本人やご家族様からの情報でこれまでの生活、習慣などを把握している。				日頃から、調理の下ごしらえや食器拭き、畑での野菜栽培など、事業所では利用者一人ひとりに役割と楽しみを持ちながら、張りのある毎日の生活が送れるように支援している。訪問調査日には、男性利用者が洗濯物を干しをしている様子を見ることができた。また、裁縫や編み物が得意な利用者には、入居後にも継続できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯物をたたくてもらったり、その方の出来る範囲でお願いなどしている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ下地域との交流ができていない。				

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人やご家族様から情報をいただき、ご希望に合わせて準備を行なっている。				整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員は利用者にとりげなく声をかけをして、自分でできる利用者には自身で整えてもらうなど、プライドにも配慮した支援している。ベッド上で過ごすことが多い重度の利用者もいるが、毎日の更衣をしてもらい、昼夜の区別やメリハリをつけるよう支援している。また、病院で長くパジャマで過ごしていた利用者が事業所へ入居し、日中に服へ着替えることを拒否していたものの、職員が声かけを工夫しながら、着替えてもらえるようになった事例もある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご本人やご家族様からの情報やご希望に合わせて好みの服や持ち物、髪型などを整えさせていた				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	その都度、一緒に考え選んだりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その都度、一緒に考え選んだりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度、気をつけるようにしており、ご自分で整えてもらったり職員がそっとお手伝いしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ご希望があれば同行するが、現在は特になくホームに来られる方をお願いしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その都度、ご本人に合わせて行っている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	入居者にとって食事が1番の楽しみであることを職員全員が理解している。準備をするところから出来上がりまですぐそばで見ることができ、楽しい時間となっている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	次は何が食べたいと伺ったり、食事が美味しかったどうかは良く伺う。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食事が美味しかったどうかはよく伺うが、献立作りや調理、後片付けなどに入居者は参加できていない。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご本人やご家族様から得た情報を基に苦手なもの、アレルギーの有無などを把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	ご本人やご家族様から得た情報を基に苦手なもの、アレルギーの有無などを把握している。また季節感を感じさせる食材の注文や献立を行なっている。			○			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おもしろい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の咀嚼、嚥下状態や体調に合わせて調理の仕方や盛り付けなどを工夫しているが誤嚥防止のためにどうしても必要な人にはトミをつけたり、ミキサー食としている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時には必ずご家族様にこれまで使われた食器など持って来ていただくようにしている。			◎			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	○	一緒に食べたり、食事介助をしながら入居者の様子を観察している。			○			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	台所がすぐそばにあり、調理をしているところをみることができる。		◎	○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一緒に食べながら食事量や水分量を毎回チェックしている。						
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一緒に食べながら食事量や水分量、咀嚼の状態を毎回観察しており、必要に応じて対応している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士はいないのでアドバイスは受けていないが献立を立てる者、調理する者がときどき意見交換を行っている。糖尿病や高血圧症の方など医師から体重や塩分の摂りすぎに注意するように言われている方については気をつけている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は常に新鮮な物を使用するように乾物や調味料以外は細かく発注し、献立に合わせて日付を記入するなど衛生管理を日常的に行なっている。						

愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ個々の入居者の状態把握と誤嚥性肺炎などの知識を教わっている。				毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。定期的に、事業所には訪問歯科の往診があり、利用者の口腔内の状況を確認してもらい、伝えてもらっている。また、職員は歯科衛生士から口腔ケアのアドバイスを受けており、口腔ケアの重要性を教えてもらっている。また、認知症の進行など、口腔ケアが苦手な利用者もあり、職員は状況やタイミングを見計らいながら、介助するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ個々の入居者の口の中の状態や誤嚥性肺炎などの知識を教わっている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生指導を受け入れ口腔ケアの正しい方法について教わっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	できる方には毎回義歯の手入れを指導、後はこちらで仕上げを行なっている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後のケアを毎回行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	定期的に訪問歯科診療や訪問歯科衛生士の指導を受け入れ個々の入居者の状態把握に努めている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	認知症の進行からトイレ介助が難しいなどやむを得ない方以外はオムツを使用せずトイレ介助としている。尿意がなかったり、間に合わないなどの事情で紙パンツやパッドを使用している方が多い。				事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として支援している。トイレに間に合わず、失禁してしまうこともあり、事業所ではリハビリパンツを使用している利用者も多い。夜間に、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、職員は利用者のトイレに行きたいサインやタイミングを見逃さないようにして、一人ひとりに合わせた声かけやトイレ誘導を行い、パッドなどの排泄用品に頼りすぎず、トイレで気持ちよく排泄できるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食欲減退、嘔吐、夜間不眠、不穏などからいつもと異なる様子で影響を理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングや担当者会議などで話し合い見直している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングなどで話し合い看護師や医師とも相談し取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄介助から日々の様子を申し送りし、早めの対応ができるようにしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄介助から日々の様子を申し送り、ご本人やご家族様とも相談しながら行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	排泄介助から日々の様子を申し送りし、ご本人やご家族様とも相談しながら行っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	排泄介助から日々の様子を申し送り、必要時はショートミーティングなどで話し合い実行している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	できるだけ入居者の都合やご希望に合わせて支援しているが時間帯など職員の都合に合わせていただくことが多い。	◎		○	利用者は、週2回を基本として入浴することができる。汚れなどの状況により、入浴の必要性がある利用者には、毎日のシャワー浴などの対応もしている。入浴が苦手な利用者には、入浴日をカレンダーに記載したり、無理な入浴とならないように対応したりするなど、利用者自身の心理的負担がないよう支援している。また、利用者の希望の湯の温度にしたり、好みの入浴剤を入れたりするなど、職員は入浴が気分転換となるよう心がけて支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	リラックスできるよう心掛けて介助に当たっている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身などできるところはご本人にお願いしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、本人と相談してカレンダーなどに予定日を入れておこなっている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎日の健康チェックや入浴前のバイタルチェックなどで入浴の可否など決めている。				

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の就寝時間や夜勤者からの報告などから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	入居前から継続して眠剤などを服薬している利用者もいるものの、事業所では日中の過ごし方の工夫して、夜間安眠できるよう努めている。また、事業所では、利用者の体調面や状態に考慮し、主治医と相談しながら服薬を中止した利用者もいるなど、安易に薬剤に頼らないような支援をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間眠りが浅かったり、早朝覚醒など個々の様子に合わせて個別の離床介助を行っている。昼夜逆転にならないよう生活リズムにも注意して対応している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の状態観察から医師とも相談しながら行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午前、午後とお部屋でゆっくり横になって過ごせる時間をとっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	昨年から面会制限が続いているため電話でお話ができるようにしている。また、ご利用を希望されるご家族にはリモートによる面会を行なっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	昨年から面会制限が続いているため電話でお話ができるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご家族様からの連絡がほとんどであるが、ご希望があればいつでもできるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人に直接渡して読んでもらっている。読めない場合は代読も行っている。お荷物が届いたときにはご家族様や送り主に受け取ったことを伝えている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会ができないため電話やお手紙をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	ご本人が希望すればお金の所持は可能としている。ただし、小口現金をお預かりしているので必要時はいつでも出せるため小額でお願いしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	外出制限があるためお金を使う機会がほとんどない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	予約を取る必要がある場所、レストランなどでは事前にご協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	入居時に確認をおこなっており、必要時はご家族様に報告、相談を行なっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に確認をおこなっており、必要時はご家族様に報告、相談を行なっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	各ユニットで小口現金として管理し、毎月本部を通して領収書の送付やや残高を報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	必要時はご本人やご家族様と相談して柔軟に取り組んでいる。	/	◎	/	事業所では、利用者や家族の希望に沿って、マッサージなどの外部サービスを取り入れたり、家族と一緒に外出したり、夜間の面会希望にも応じるなど、柔軟な対応をしている。現在のコロナ禍において、事業所には面会や外出制限が設けられているため、実現できていない部分はあるが、職員は可能な限り対応できるよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先にプランターなど配置し、季節の小花などを植えつけ親しみやすいように取り組んでいる。	◎	○	○	国道から少し入った場所に事業所があり、分かりやすいように案内板が設置されている。ガラス扉で明るく開放的な玄関は、同じ建物内にあるデイサービスと一緒に使用している。また、建物の正面には事務室があり、来訪者は声をかけやすくなっているほか、プランターには季節の草花が植えられている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	入居者の個室の家具はそれぞれご自宅で使用されていた馴染みのあるものが置かれ、外出やイベント、日帰り旅行の写真など展示できるだけ住み慣れたホームになるよう努力している。	◎	◎	○	ワンフロアにキッチンとリビングがあり、利用者同士や職員はアットホームな距離感で過ごすことができている。リビングや居室から、事業所の畑を眺められるほか、窓を開放していると小鳥が入ってくることもあり、利用者は自然な風景や外気を感じる事ができている。また、事業所は開設して年月が経過しているものの、必要な所を補修したり、こまめな清掃をしたりするなど、気持ちの良い空間となるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	更衣や洗濯、ベッドを整えたりお部屋の掃除など毎日に行ない入居者が清潔で気持ちがいいように取り組んでいる。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングが狭いこともあり、入居者同士がお話するのにちょうど良い距離があることから会話が弾む。スタッフや入居者がお互いすぐそばにいて安心感がある。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	午前、午後とお部屋でゆっくり横になって過ごせる時間をとっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	介助の際は戸を開けプライバシーを守るようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家具は無論、衣類や被り物、履物などご本人やご家族様が選んだ物を用意させていただいている。	◎		◎	居室はベッドとエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けてある。元の企業の寮を改修したこともあり、居室にあるコンロは使用できないようにしているものの、ミニキッチンや冷蔵庫、水道も設置されており、利用者の洗面や整容にも使用することができる。また、居室には、馴染みの家具や仏壇を持ち込むことができるほか、畳を敷いている部屋もあり、利用者にとって居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	お部屋を間違えないようにドア飾りをしたり、お名前を書いたり、トイレの表示を少し大きくしたり工夫している。			○	事業所では、利用者が分かりやすいよう浴室やトイレの表示を工夫している。利用者が日時を確認しやすいように、リビングや居室には、時計やカレンダーを設置している。事業所は元の企業の寮を改修して活用しており、構造上でリビングから居室の場所が見えない位置に設置されているため、利用者の安全に配慮して、居室までの移動は職員が見守りや介助をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	スタッフ間で相談しながら取り組んでいる。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	コップや箸など馴染みの物を日常生活でそのまま使用して頂いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態では暮らしの不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットの入り口や玄関など日中に鍵をかけることはない。事故防止のためにドアの入り口にセンサーを設置して早めに対処できるようにしている。	◎	◎	○	玄関の自動ドアは、日中を含めて22時ぐらいまで稼働させているが、各ユニットの入り口は夜勤職員が1名になる17時には施錠するようにしている。各ユニット入り口にはセンサーの設置があり、利用者や来訪者の出入り時にはセンサーの音で職員は確認することができる。また、外に出ようとする利用者には、職員が付き添ったり、声をかけをしたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	今は新型コロナのため面会制限を行なっているが普段はいつでも面会が自由にでき、ご家族様とも外出ができることをお伝えし、理解をいただいている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	今は新型コロナのため面会制限を行なっているが普段はいつでも面会が自由にでき、ご家族様とも外出ができることをお伝えし、理解をいただいている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居相談や訪問調査、退院時サマリー、診療情報提供書、入居時アセスメントなどから情報を整理し介護サービス計画書に反映するなど知らしめている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護サービス計画書に盛り込まれた医療情報を基に日々の様子やバイタルチェックなどから早めに対応ができるようにしている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療連携をはじめ、ユニット毎に配置された看護職員とも気軽に相談ができ、担当医とも電話や往診時にいつでも相談指示をいたくようにしている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	担当医やご家族様と相談し、適切に支援できている。	/	◎	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	担当医やご家族様と相談し、適切に支援できている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診前や受診後、その後の様子などご家族様に必ず報告し、ご了解をいただいている。また担当医にはご家族様のご希望やご意向など伝えている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	担当医から入院先の医師に診療情報を送っていただいたり、ホームでの介護情報をお渡ししたり、入院先の聞き取りに応じている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院先が行う治療進捗状況に伴うカンファレンスや退院前カンファレンスにご家族様と一緒に参加したりして情報交換を行なっている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	医療相談室や地域連携室と連絡を取り合って情報交換を行なっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医療連携を行っており、各ユニットの情報を看護職が把握している。また各ユニットには看護職員も配置していることから介護職はいつでも相談ができるようになっている。訪問看護の必要時は担当医からの指示で、ご家族様のご了解をいただき受け入れている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関が2か所、歯科診療が1か所と契約を結び歯科を除き24時間体制でいつでも相談、指示を受けることができるようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	協力医療機関が2か所、歯科診療が1か所と契約を結び歯科を除き24時間体制でいつでも相談、指示を受けることができるようになっている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	往診時や電話相談時に医師から説明を受けたり、薬が届いた際に薬剤師から薬の説明を受けたり、処方箋に書かれたない内容を読んで理解するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	入居者一人一人の薬の管理を行ない、提供時には毎回複数(2名)で確認している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	夜間の就寝状況や食欲、排泄状況、身体の痛みや浮腫み、バイタルの様子など日常的に観察を行なっている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	夜間の就寝状況や食欲、排泄状況、身体の痛みや浮腫み、バイタルの様子など日常的に観察を行なって情報提供を行なっている。	/	/	/	



愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ホーム入居時に重度化した場合の対応についての看取り指針を提示し、必要時は看取りのカンファレンスなど実施し、ご本人やご家族様のご意向などをしっかりと伺っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明している。事業所では、24時間体制で主治医との連携が構築されており、看護師や職員などを含めて話し合い、方針を共有している。また、利用者が重度化した場合には、利用者や家族の意向を確認しながら関係者で話し合い、看取り介護を実施している。また、看取り後には、ユニット長や経験のある職員が家族や職員の気持ちの面でのフォローをしているほか、職員間で看取り介護の振り返りの話し合いを実施するなど、チームでの看取り支援にも取り組んでいる。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ホーム入居時に重度化した場合の対応についての看取り指針を提示し、必要時は看取りのカンファレンスなど実施し、ご本人やご家族様のご意向などをしっかりと伺っている。	○	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	状態が変わっていく様を職員から常に報告を受け、ご本人やご家族、医師や看護師、看護職員、介護職員の連携体制がどのようにできているか常に確認するようにしている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りの指針に基づき、ホームでできること出来ないことを説明して理解いただいている。また、必要に応じてカンファレンスを開き医師を交えご家族の意思を確認している。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	カンファレンスを開き、ご家族様の意向や主治医の説明などを受け準備を行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	亡くなる直前に、できるだけ最後をご家族様と一緒に過ごせるよう刻々と変化する様子を細かに観察し、ご家族様に早めに連絡して看取りができるよう面会に来てもらっている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症についてはこれまでは年に1回から2回程度学習会を開催していたが、新型コロナに関しては松山市をはじめ、愛媛県や本社からの情報をもとに注意喚起をおこなっている。職員全員のPCR検査を実施したり、できるだけ県外に出ないように通達したりしている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明している。事業所では、24時間体制で主治医との連携が構築されており、看護師や職員などを含めて話し合い、方針を共有している。また、利用者が重度化した場合には、利用者や家族の意向を確認しながら関係者で話し合い、看取り介護を実施している。また、看取り後には、ユニット長や経験のある職員が家族や職員の気持ちの面でのフォローをしているほか、職員間で看取り介護の振り返りの話し合いを実施するなど、チームでの看取り支援にも取り組んでいる。	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染予防が中心で簡易な防護服やマスク、手袋、消毒の用意。廊下や手すり、トイレの消毒、手指消毒、手洗い励行、入居者のユニット間交流、デイサービスとの交流中止などしているが、発症した場合に備えて訓練は特にできていない。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	携帯やスマートホン、テレビ、ラジオなど情報伝達機器を通じて毎日のように新しい情報を入手している。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	携帯やスマートホン、テレビ、ラジオなど情報伝達機器を利用して毎日のように新しい情報収集に努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員には出勤前の検温の義務付けや手洗い、うがい、手指消毒を奨励し、来訪者には玄関先での手指消毒、検温、名簿への記載などをお願いしている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	ご家族様とはいつでも連絡を取り合っておりスタッフができないことを聞いて頂いたり、食思不振の方などご家族様の協力いただいている。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所からクリスマス会や日帰りバス旅行などの行事開催の案内を家族に送付し、毎年参加協力を得て開催することができていた。現在のコロナ禍において、家族に行事の案内することはできていないが、請求書などの書類の送付時に、担当職員から手紙に写真を添えて、日頃の利用者の様子を伝えている。また、事業所では、現在面会制限を設けていることもあり、電話連絡のほか、LINEのテレビ電話を活用してオンラインでの面会ができる工夫をしており、少しでも家族に利用者の顔が見えて交流ができるようにしている。また、全ての家族には、運営推進会議の参加案内のほか、議事録も送付しており、事業所の出来事や利用者の様子などを伝えている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナの影響で現在は難しいがいつでも自由に面会ができるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	コロナの影響で現在は現在は難しいがデイサービスとの合同行事や夕涼み会、日帰りバス旅行などに参加していただきご入居者との思いで作りを行なっている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	お手紙や電話、ユニットニュース、運営推進会議の報告書等でご入居者の暮らしぶりや日常の様子を報告することができている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	お手紙や電話、ユニットニュース、運営推進会議の報告書等でご入居者の暮らしぶりや日常の様子を報告することができている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	できれば面会を多くしてご本人様のご様子を直接お知らせしたいところですが、現状では難しいため、電話やお手紙などでご様子をお知らせしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	コロナ下、面会の事や運営推進会議の案内、報告、職員の移動など報告を行っている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナの影響で現在はできていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時やその後の様子からご家族様に説明、報告し、ご相談にのって頂いている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	ご家族様とは頻りに連絡を取り合っており、ご様子を伝えて、ご相談にものって頂いている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時をはじめ退去時にも詳しく説明し、契約内容の変更などについてもご家族様にお伝えし、ご了解を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	このユニットではないが他のユニットでは介護度が要支援1になった方やご本人が希望され在宅に移行されたケース2件ある。それぞれ次の施設に移れるまで一緒に探したり、居宅会議支援事業所につないで在宅に戻り、デイサービス利用に至ったケースがある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	パンフレットを作成し、入居相談時や入居契約の際に詳しく説明し、ご了解をいただいている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設時から町内会に参加して地域の行事に入居者と一緒に参加してきた。また、ホームの各種行事にも参加をお願いし、ホームの役割についてご理解、ご協力いただけるよう努めている。	/	○	/	事業所の開設当初から町内会に加入し、利用者と一緒に地域行事に参加したり、散歩時には地域住民とあいさつを交わしたりするなど、積極的に地域とのかわりを持っている。毎年、利用者が地域の運動会に招待されたり、事業所の夏祭りに地域住民の参加協力を得たりするなど、地域との交流を深めている。現在のコロナ禍において、様々な地域行事が中止になっているものの、散歩途中で地域住民と会話したり、事業所の畑で収穫した野菜を近隣住民にお裾分けしたりするなどの交流が継続できている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	開設時から町内会に参加して地域の行事に入居者と一緒に参加してきた。また、ホームの各種行事にも参加をお願いし、ホームの役割についてご理解、ご協力いただけるよう努めている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	はじめの頃は玄関先に張り紙をされたりして、一部の方から反発もあったがその後はなくなり、入居者が地域の行事に参加しても温かく声をかけて下さり、散歩の途中話しかけたりして下さる。職員も通リすがりにご挨拶が自然にできている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	この1年程は無いがそれまでは町内会長さんなどがときどき通リすがりにホームに立ち寄り下さることがあった。今でも道端で会うと「ホームは(感染者を出さず)によく頑張っている」とほめて下さる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	朝の挨拶や庭の手入れをされている方との談笑など行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍以前は紙芝居やお話相手に近くの方がボランティアで来られていたが、高齢を理由にやめられてからは来られていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	以前は町内会の行事に参加されていたが、現在はコロナのためなし。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署の方々のご理解とご協力で毎年、定期的に防火訓練や防災訓練を行なっている。また、入居者の理美容に外部から来ていただき協力いただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	この1年間は文書開催となり直接お会いする機会が無いが、ご意見やご希望を伺うようにしている。	/	◎	◎	新型コロナウイルス感染症予防のため、現在の運営推進会議は職員のみで開催している。事前に家族の意見を聞き、会議の参加メンバーに報告書を送付している。会議では、利用者の様子や事業所の行事、伝達事項などを報告することができているが、外部評価の内容や取り組み状況などの報告までには至っていないため、今後は評価内容の一部をピックアップして分かりやすく記載したり、目標達成計画の取り組み状況を報告したりするなど、より参加メンバーに理解が得られるような取組を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	外部評価の結果など報告はしているがその後の取組状況まではできていない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	事前にご意見やお知らせなどを伺ったり、会議の結果を報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加できる職員のみを対象に時間帯や日時を調整している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ご家族様や松山市、地域包括支援センター、他の施設等に報告している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を作成し、共通認識を持つよう職員にも知らし日常的に取り組むことができるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	毎回、運営推進会議の資料にも掲載してご理解いただくよう努めている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内等配布し奨励している。	/	/	/	他の介護サービス事業所を運営していることもあり、法人代表者は事業所へ来訪する機会は少ないものの、毎週統括マネージャーの来訪しているほか、ホーム長は電話などで相談することができる。事業所では、定期的に研修会を実施し、職員のスキルアップに努めている。職員から出された意見は、ホーム長を通して法人本部に届けることができ、法人・事業所として、職員の働きやすい職場環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的に現場で必要な研修を奨励し、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	社員が働き甲斐のある職場作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの影響で参加できていないが事業者交流会や他の施設の運営推進会議などに参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に2回、管理者や職員から職場環境や働き甲斐など自己評価表の提出を通して把握に努めている。	○	△	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会や身体拘束適正化委員会を開催し、検証している。	/	/	/	定期的に、事業所では虐待や不適切ケアなどの研修会を実施するほか、申し送り時などに、「言葉づかいを含め、何が不適切なケアにあたるのか」を職員間で話し合いをしている。また、定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、不適切なケアなどを話し合うことができている。また、全ての職員は、気になる行為が見られた場合の対応方法を理解できている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りに毎日同席したり、カンファレンスに参加したり、ケア方法についてスタッフやケアマネ、看護師と頻りに相談し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務状態を見ながら職員本人からも気軽に相談を受けようとしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、虐待や不適切ケアについて検討しあっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	パンフレットなどを取り寄せ相談にのったことがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	パンフレットなどを取り寄せ相談にのったことがある。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	入居時に相談を受け連携を取ったこともあるが現在はない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時対応マニュアルがある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年1回実施している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告やヒヤリハットの報告など職員間で共有し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	サービス計画書に上げ事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	相談苦情マニュアルを作成し周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談苦情マニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談苦情マニュアルに沿って対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設置し対応している。			◎	職員は利用者に声をかけて、意見や要望を聞いているほか、日々のかかわりの中で意見などを気づくことを心がけて支援している。家族には、電話で利用者の様子の連絡報告時などを活用して、意見を聞いている。また、事業所では、定期的に家族アンケートを無記名で実施しており、出された結果や意見をもとにして、ケアの振り返りやサービス向上に活かしている。さらに、日頃からホーム長は利用者や職員と会話やかかわる機会も多く、職員から意見や要望を聞き、利用者本位のサービスに活かせるよう取り組んでいる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	契約時に相談窓口を設置していることを伝え重要事項にも記載している	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時に相談窓口を設置していることを伝え重要事項にも記載している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	朝の申し送りに毎日同席したり、カンファレンスに参加したり、ケア方法についてスタッフや看護師と頻りに相談合っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	ユニット長会議や各ユニットからの相談にのったり指導を行なっている。			◎	

愛媛県グループホームすみれの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し取り組んでいる。				外部評価の結果や内容、目標達成計画については、運営推進会議の中で、参加メンバーや家族に報告をしている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーなどに、外部評価への結果の意見や提案を出してもらったり、取組み状況の確認のモニターを呼びかけたりするなど、サービスの向上に反映できるような取り組みを期待したい。また、外部評価の結果は、事業所内の廊下にも配置し、来訪者等はいつでも閲覧できるようにになっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	報告し、意識統一をはかっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告し、アドバイスを受けている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等で報告し、アドバイスを受けている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し周知している。				コロナ禍の影響で例年の避難訓練と変更している部分はあるものの、実際に2階にいる利用者も一緒に屋外等へ避難訓練を行い、事業所として避難方法の再確認をしている。以前の事業所の訓練では、地域住民が避難訓練の様子を見学などをされていたこともあったが、現在のコロナ禍を含め、訓練への参加協力を得ることができていないため、火災や地震などの方が一の災害に備え、地域の防災訓練への参加時に再度協力を呼びかけるなど、協力体制が話し合える機会を持てるような取組みを期待したい。また、事業所として、地域の防災訓練に参加協力することができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	マニュアルを作成し年に2回以上おこなうよう計画している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	毎日、夜間帯で確認している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	町内会に参加し、防災訓練など職員が中心に参加している。消防署は毎年訓練に立ち会っていただいていたが、コロナの影響で自主訓練となっている。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	町内会に参加し、防災訓練など職員が中心に参加している。消防署は毎年ホームの訓練に立ち会っていただいていたが、コロナの影響で自主訓練となっている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	日々の介護に追われ地域に向かって提案することはできていない。				事業所として、地域の高齢者や家族などに特段の相談支援の案内は行っていないが、相談があれば対応できる体制を整えている。事業所では、市内高校の福祉課の介護実習の受け入れにも協力している。また、事業所では、地域包括支援センターや近隣の他の介護サービス事業所など連携を取っており、相談や協力できる関係を構築している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	ご相談があればいつでも受けることはできるがこれまではできていない。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	夕涼み会など毎年開催し、地域の方にも参加をお願いしていたが昨年から中止している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	城南高校福祉課の生徒さんの介護実習場所として協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	包括支援センターなどが主催する福祉まつりなどに参加しているがこの2年程は開催されず参加できていない。			○	